Panasonic

取扱説明書

ホームシアターオーディオシステム

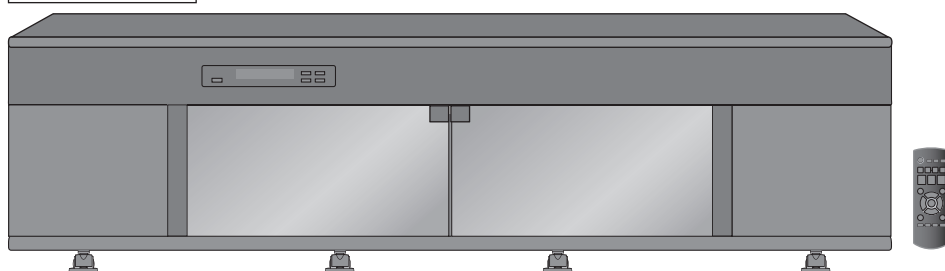
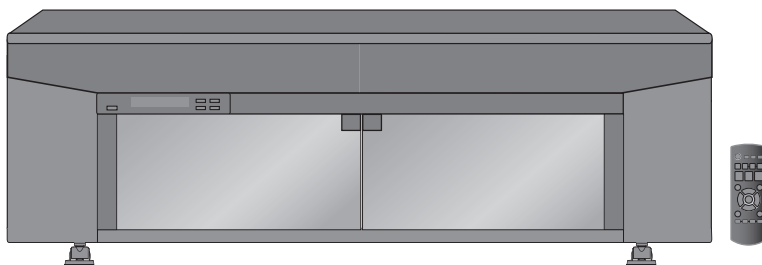
品番 SC-HTX900
SC-HTX800

安全上のご注意

はじめに

準備

楽しむ

困ったときは?他

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

保証書別添付

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に **「安全上のご注意」（→ 31 ～ 33 ページ）を必ずお読みください。**
- 保証書は「お買い上げ日･販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

HDMI VIERA Link

VQT2U07-2

もくじ

「安全上のご注意」を必ずお読みください。（→ 31 ～ 33 ページ）

はじめに

準備

楽しむ

困ったときは？他

付属品

- 付属品の買い替えは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- かっこ【　】内は、買い替え時の品番です。
  (品番は 2010 年 3 月現在のものです。品番は変更されることがあります。)
- 電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
- 包装材料などは商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。
- 小物部品については乳幼児の手の届かないところに適切に保管してください。

■ 包装仕様図

付属品と別売品(➜ 6ページ)は販売店でお買い求めいただけます。パナソニックの家電製品直販サイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。

CLUB Panasonic
Pana Sense http://club.panasonic.jp/mall/sense/

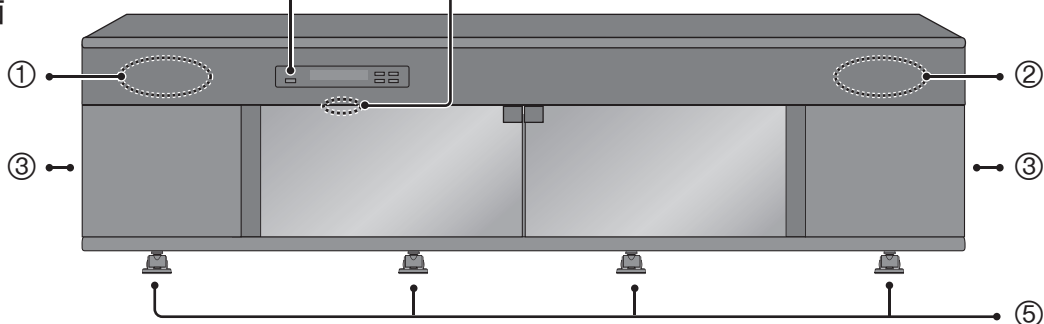
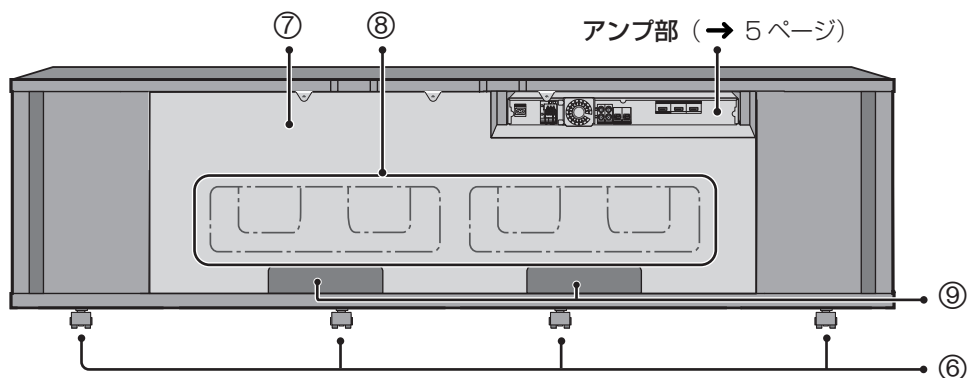
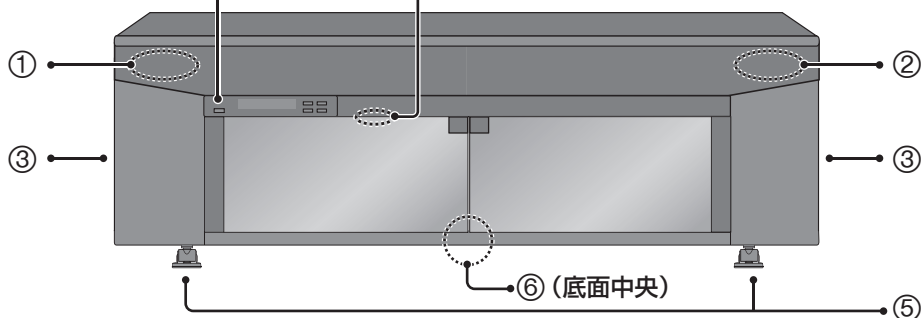
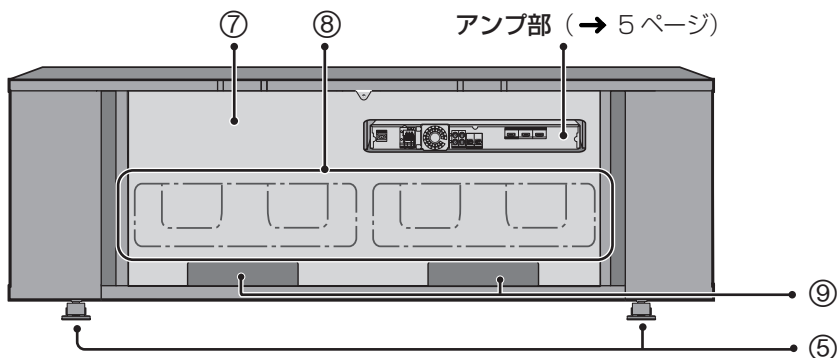
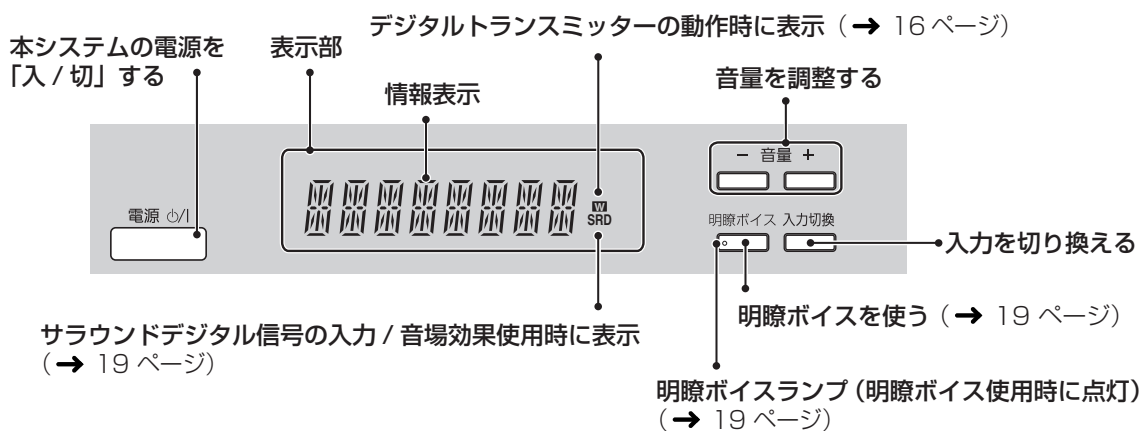
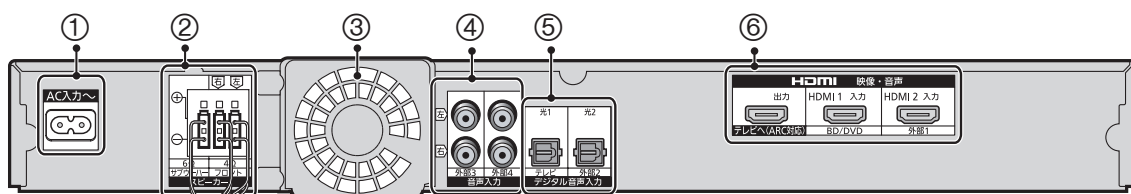
携帯電話からもお買い求めいただけます。

http://p-mp.jp/cpm

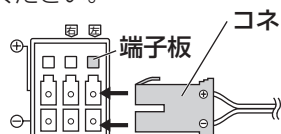
安全上のご注意
はじめに
準備
楽しむ
困ったときは？他

各部のはたらき

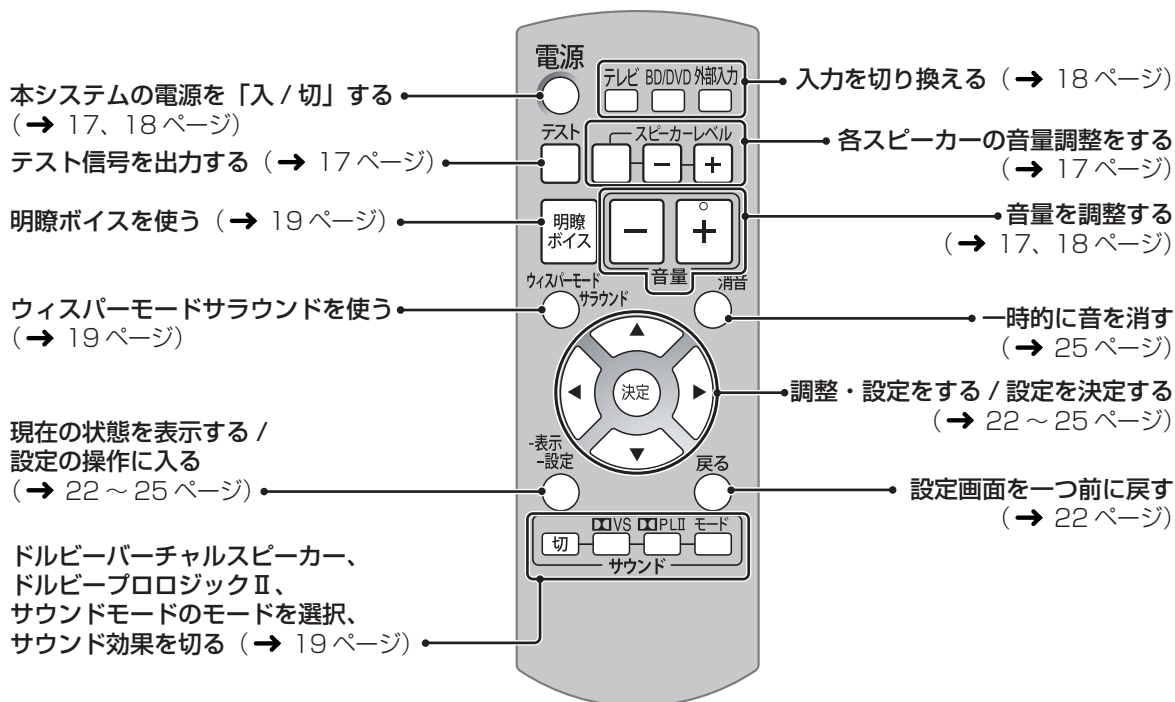
本体（ラック）

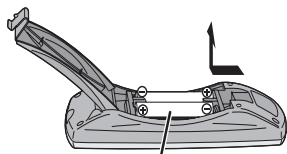
① フロントスピーカー（左） ② フロントスピーカー（右） ③ サブウーハー（側面）
④ デジタルトランスミッター端子（ガラス扉の内側） ⑤ キャスター / キャスター座
⑥ キャスター（キャスター座での固定は不要です。） ⑦ 背面板 ⑧ 切り欠き部 ⑨ 開口部

操作部

アンプ部

① 電源（AC 入力～）（➔ 15 ページ）
② スピーカー端子
③ 排気孔（冷却ファン）
④ 音声入力端子(アナログ)（➔ 14 ページ）
⑤ デジタル音声入力端子（➔ 13～15 ページ）
⑥ HDMI 映像･音声端子（➔ 13、15 ページ）

スピーカー端子について

コネクターがはずれた場合などは、下図を参考に接続してください。

コネクターの色と端子板の色を合わせて、まっすぐ奥まで差し込む。

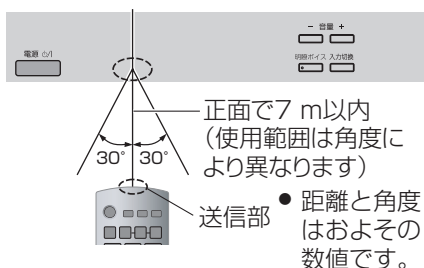
各部のはたらき（つづき）

リモコン（本書ではリモコンでの操作を中心に説明しています。）

乾電池の入れかた

ふたのふちを押しながら開ける

⊕と⊖を確認！（単 3 形）

電池はマンガン乾電池、または
アルカリ乾電池をお使いください。

リモコンの使いかた

● 距離と角度はおよその数値です。

■ 使用上のお願い

●受信部とリモコンの間に障害物を置かない。

●受信部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。

●受信部と送信部のほこりに注意する。

別売品のご紹介

■ コード / ケーブル

コード/ケーブル名	長さ	品　番
HDMIケーブル	(1.0 m)	RP-CDHS10
	(1.5 m)	RP-CDHS15
	(2.0 m)	RP-CDHS20
	(3.0 m)	RP-CDHS30
光デジタルケーブル	(0.5 m)	RP-CA2005
	(1.0 m)	RP-CA2010
	(1.5 m)	RP-CA2015
	(2.0 m)	RP-CA2020
	(3.0 m)	RP-CA2030

コード/ケーブル名	長さ	品　番
ステレオピンコード	(0.5 m)	RP-CAP3G05
	(1.0 m)	RP-CAP3G10
	(1.5 m)	RP-CAP3G15
	(2.0 m)	RP-CAP3G20
	(3.0 m)	RP-CAP3G30
	(5.0 m)	RP-CAP3G50
	(10.0 m)	RP-CAP3G100

■ ワイヤレスシステム

以下のものをお買い求めください。

- SH-FX70
（デジタルトランスミッターとワイヤレスシステムのセット）
- サラウンドスピーカー

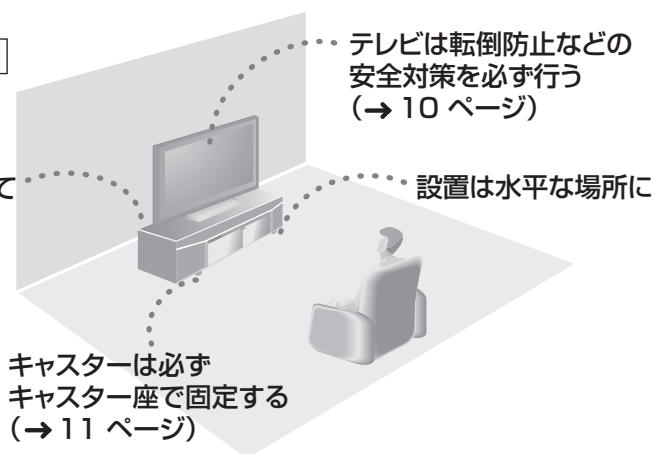
ケーブル類は、置きかたや接続方法などにより、必要な長さが異なります。ご購入の際は、長さを十分確認してください。
別売品の品番は、2010 年 3 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

ラックの設置と取り付け

設置について

本書では、特に説明のない場合、イラストは **SC-HTX800** を使用して説明しています。

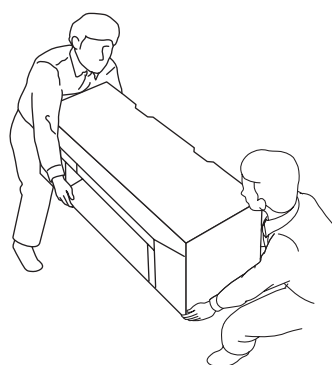
- ラックを動かす作業は、2 人以上で行ってください。
- プラスドライバーを用意してください。（電動ドライバーは使用しないでください。）
- 不安定な場所を避けて、水平な場所に設置してください。
- ガラス扉の取り扱いには、十分にご注意ください。

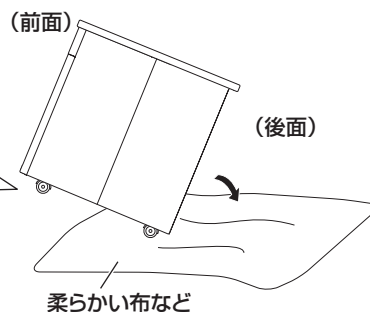
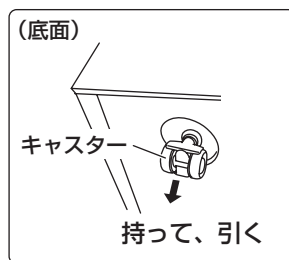
設置例

お知らせ

- 設置機器の奥行きや接続ケーブルの種類によっては、壁付けができない場合があります。
- 後面の排気孔をふさぐことになるので、カーテンなどの前には置かないようにしてください。
- 床材の素材によっては、キャスターの回転跡が残る場合があります。
- 柔らかい床材（畳、毛足の長いじゅうたんなど）の上では、キャスターを外してください。（→ 下記）

ラックの持ち上げかた

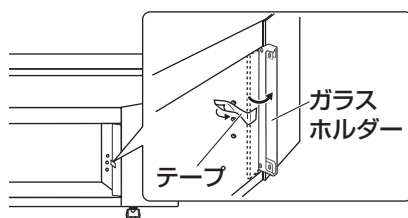
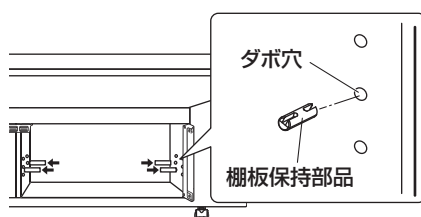
① 天板後面を持ち上げ、後面側の底に手を入れる

② 前面側の底に手を入れ、左右の手で水平になるように持ち上げる

キャスターの取り外しかた

- 床に柔らかい布などを敷き、後面側に倒して、取り外してください。
- 作業時には、ラックの上や中には何も置かないでください。（アンプ部やスピーカー部は固定されていますので、取り外す必要はありません。）

ラックの設置と取り付け（つづき）

棚板の取り付け

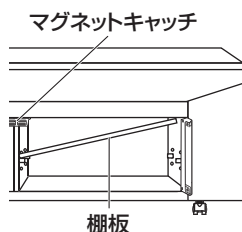
準備

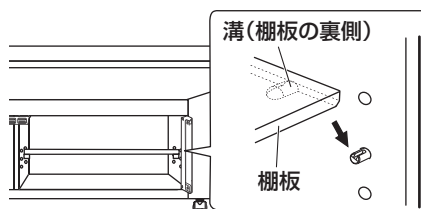
ガラスホルダーを固定しているテープを外し、棚板が入るようにガラスホルダーを外側に向けて開いてください。

1 両側のダボ穴に棚板保持部品（付属）を挿入する。

2 棚板（付属）を入れる。

- 棚板に前後の区別はありません。

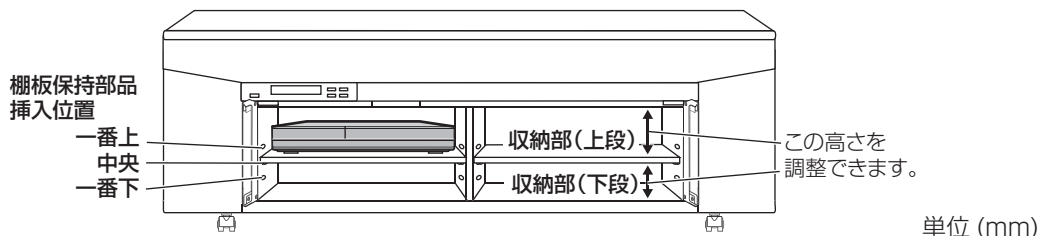
SC-HTX800 のみ

マグネットキャッチに棚板が当たらないように、中央側の棚板を下げて、斜めに入れる。

- 棚板の両側が棚板保持部品より上になるように入れてください。

3 棚板保持部品の上に棚板の溝が合うように棚板を載せ、水平に設置する。

- もう一方の棚板も同じように設置してください。

棚板に収納できる機器について

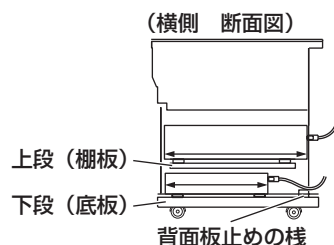
棚板保持部品を挿入する位置によって、収納部（上段／下段）の高さを調整できます。
下表を参考にお持ちの機器を正しく収納してください。

単位 (mm)

棚板保持部品の挿入位置	収納部	収納部の高さ		収納可能な製品の奥行き		収納部の幅	
		SC-HTX900	SC-HTX800	SC-HTX900	SC-HTX800	SC-HTX900	SC-HTX800
一番上	上段	79	84	310 以下※	280 以下※	485	448
	下段	125	118				
中央	上段	109	114				
	下段	95	88				
一番下	上段	139	144				
	下段	65	58				

※ 表の数値を超える奥行きの製品については、棚板保持部品を一番下に挿入し、収納部（上段）に設置してください。その際は、切り欠き部「大窓」を取り外してください。（➜ 下記「コードの取り出しについて」）

(お知らせ)

- 収納部の上段（棚板）と下段（底板）には、12 kg を超える機器を設置しないでください。
- 本システムと各機器の接続については、13 ～ 15 ページをご覧ください。
- 録画機器を上段（棚板）に載せると、映像に障害が出る場合があります。その場合は、下段（底板）に設置してください。
- 収納する機器によっては、機器のコードが接続できない場合があります。切り欠き部からコードが出る位置に棚板の高さを調整し、機器を収納してください。
- 右図のように下段（底板）に設置した場合、背面板止めの桟があるために、奥行きの長い機器が正しく設置されないことや収納した機器のコードが接続できないことがあります。

（横側　断面図）

コードの取り出しについて（各機器の取扱説明書もご覧ください。）

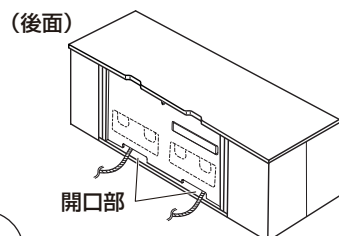
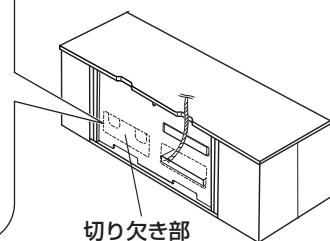
機器をラックに設置した後、コードを背面板の開口部より引き出す。

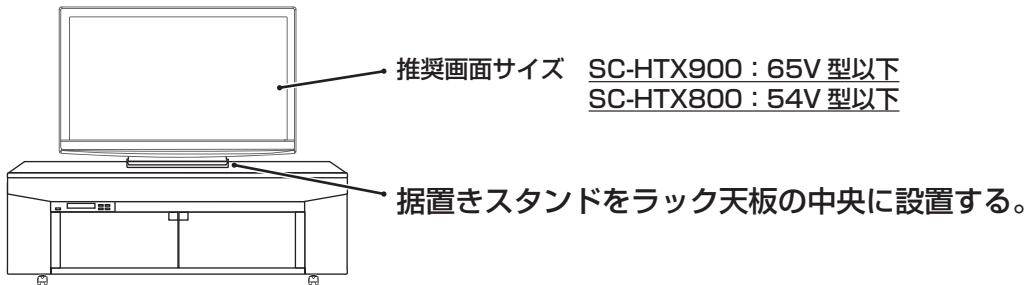
- コードが太く、開口部から引き出せない場合は、切り欠き部「小窓」を取り外してください。
- 設置する機器の奥行きが長い場合などは、切り欠き部「大窓」を取り外してください。

（後面）

■ 切り欠き部の取り外しかた

黒丸で示した箇所を親指で押す。

親指以外の指がミシン線の内側にかからないようにしてください。

ラックの設置と取り付け（つづき）

テレビの設置（テレビの取扱説明書もご覧ください。）

(お知らせ)

- 天板には以下の重量を超える機器を設置しないでください。

  SC-HTX900：120 kg

  SC-HTX800：80 kg
- テレビは持ち上げて移動してください。引きずるとラックの天板を傷つけることがあります。（持ちかたについては、テレビの取扱説明書をご覧ください。）
- 回転機能付きの据置きスタンドを回転してご使用になる場合には、テレビが壁に当たらないように壁から離して設置してください。
- 本システムは防磁設計ではありません。ブラウン管テレビを設置しないでください。
- 本システムの天板の上にはテレビ以外は置かないでください。特に次のような物は置かないでください。
  - 熱いものを置くと、跡が付いて取れなくなる場合があります。
  - 水の入った花瓶などを置くと、倒れた際に水が本システムにかかり故障の原因になります。

テレビの転倒防止について

■ ラックへの固定

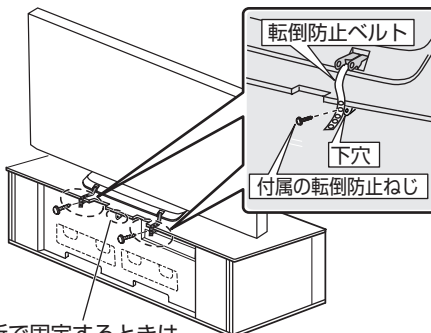
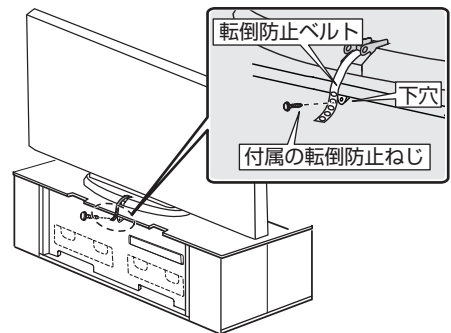
- **必ず本システムに付属の転倒防止ねじで**、転倒防止ベルト（テレビに付属）を下図のように取り付けてください。

(お知らせ)

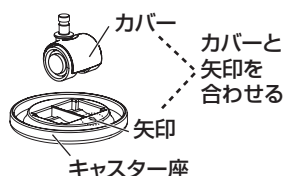
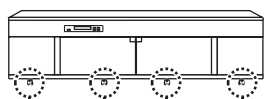
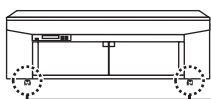
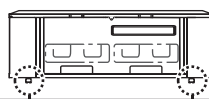
- 転倒防止ベルトがテレビに付属していない場合は、市販のベルトで固定してください。
- 強く締めすぎると、空回りして固定できなくなります。
- テレビ側の取り付けは、テレビの取扱説明書に従ってください。

■ 壁面への固定

- テレビの取扱説明書に従ってください。
- 壁や柱の材質に適した市販のねじ、丈夫なひも、または鎖などでしっかりと取り付けてください。
- 壁や柱にはテレビの重量を支えられる強度が必要です。詳しくは、専門業者などにご相談ください。

（設置例）

イラストはイメージです。実際の商品と形状が異なる場合があります。

キャスターを固定する

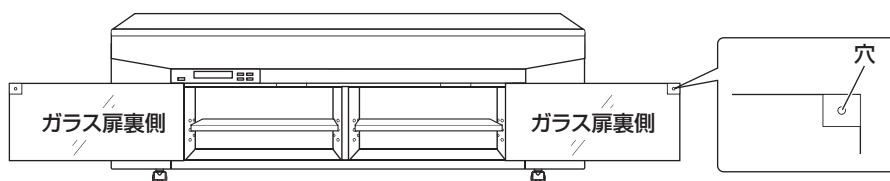
4 箇所のキャスターにキャスター座を敷いて、固定する。

- キャスター座がはみ出さないように、前面側のキャスターを内向きに設置してください。

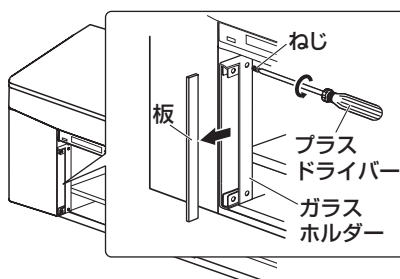
- 作業中に指をはさまないようにご注意ください。
- ラックの持ち上げかたについては、7 ページをご覧ください。

ガラス扉の取り付け

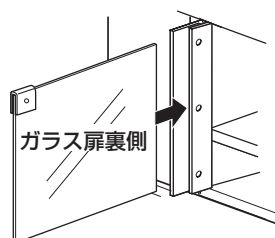
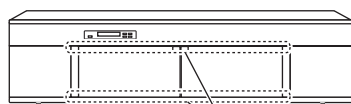
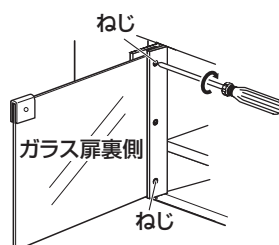
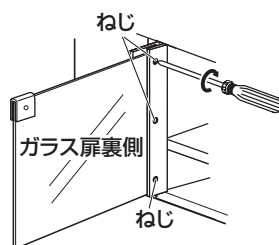
プラスドライバーは、ねじの大きさに合ったサイズをご使用ください。

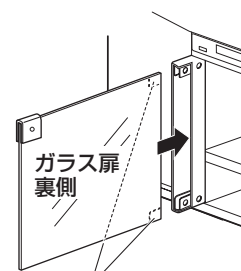
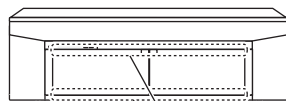
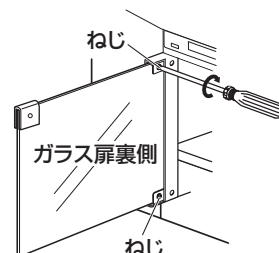
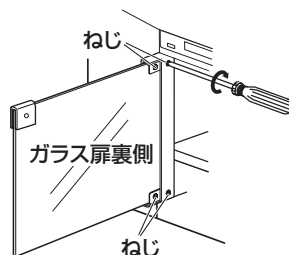
■ 左右ガラス扉の見分けかた

マグネットキャッチに穴があるほうが、ガラス扉の裏側になります。

準備

ガラスホルダーのすべてのねじを取り外し、板を取り出してください。

ラックの設置と取り付け（つづき）

SC-HTX900

1 ガラス扉（付属）を奥まで挿入する。
- イラストは左ガラス扉の取り付け例です。

2 上下２箇所のねじを仮留めし、ガラス扉の上下の透き間を調整する。

3 ３箇所のねじをしっかり締める。
- 調整した位置からずれないように気を付けてください。

SC-HTX800

1 ガラス扉（付属）を奥まで挿入する。
- 表側に貼付されているズレ防止シートは、そのままの状態で取り付けてください。
- イラストは左ガラス扉の取り付け例です。

2 手前の２箇所のねじを仮留めし、ガラス扉の上下の透き間を調整する。

3 先に手前の２箇所のねじをしっかり締めてから、奥の２箇所も締める。
- 調整した位置からずれないように気を付けてください。

接続する

- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- 接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。

■ **使用するケーブル：**「付属品」(➜ 3 ページ)、「別売品のご紹介」(➜ 6 ページ)

HDMI ケーブル（付属または別売）	光デジタルケーブル（角型）（別売）	ステレオピンコード（別売）

HDMI 端子がある機器を接続する

ARC（Audio Return Channel）（➜ 下記）による簡単接続： 従来､本システム（ホームシアターオーディオシステム）とテレビの接続には HDMI と光デジタルの２本のケーブルが必要でしたが、ARC に対応することで本システムと ARC 対応のテレビとの接続は HDMI ケーブル１本で可能となりました。
付属の HDMI ケーブルは ARC 対応です。

ARC 非対応テレビの場合

ARC 対応テレビの場合

デジタル音声出力（光）

HDMI 入力

HDMI入力（ARC 対応）

※ 付属の HDMI ケーブルは、テレビとの接続にご使用ください。

テレビの音声を楽しむときに必要です。

■ 光デジタルケーブルの接続方法

ケーブルを急な角度に折り曲げない

形状を合わせて差し込む

光1　光2　テレビ　外部2　デジタル音声入力

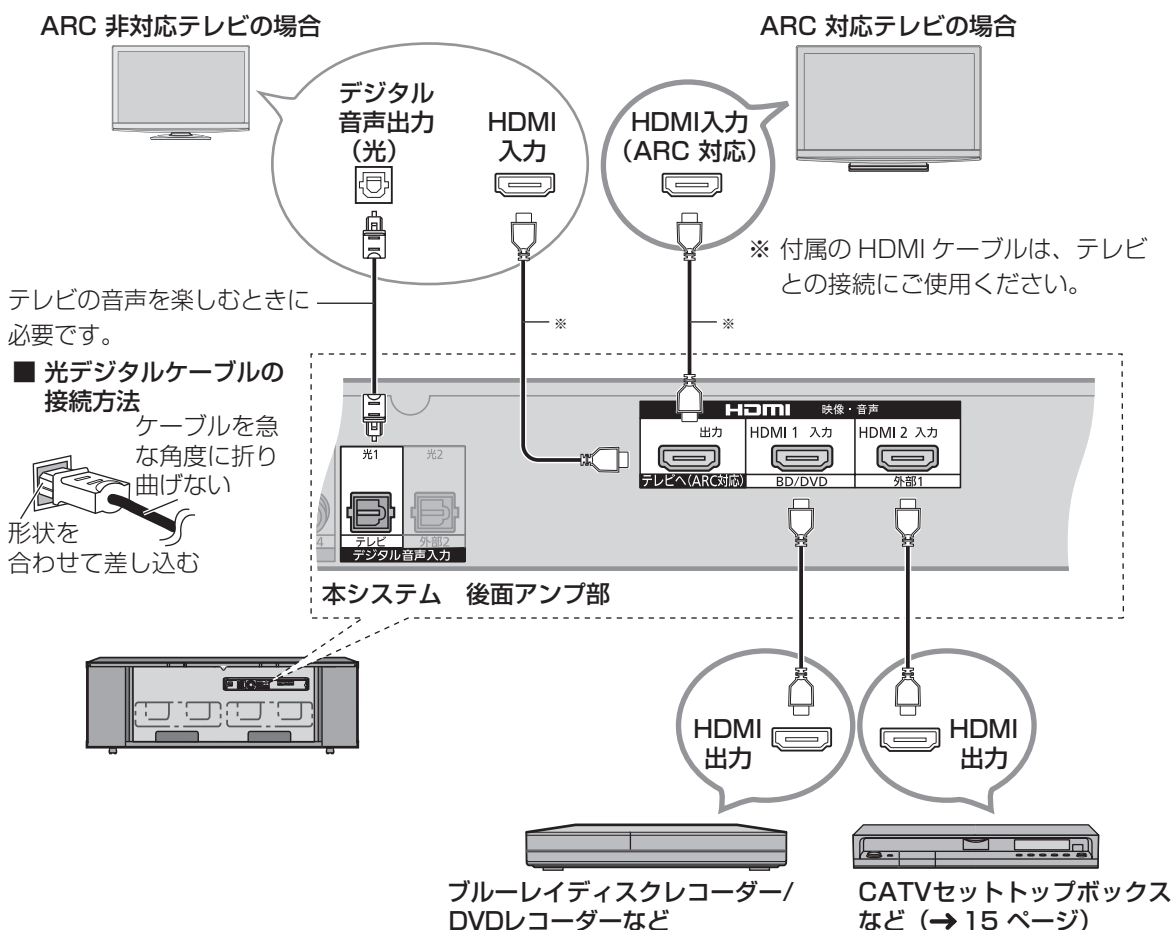
HDMI　映像・音声　出力　HDMI 1 入力　HDMI 2 入力　テレビへ(ARC対応)　BD/DVD　外部1

本システム　後面アンプ部

HDMI 出力

HDMI 出力

ブルーレイディスクレコーダー/DVDレコーダーなど

CATVセットトップボックスなど（➜ 15 ページ）

■ **付属以外の HDMI ケーブルをご使用される場合**

- 当社製 HDMI ケーブルを推奨します。
  品番： RP-CDHS10 (1.0 m)、RP-CDHS15 (1.5 m)、RP-CDHS20 (2.0 m)、RP-CDHS30 (3.0 m) など
- HDMI ロゴ（➜ 表紙）のある「High Speed HDMI™ ケーブル」をお買い求めください。
- 1080p 出力時は、High Speed HDMI™ ケーブルをおすすめします。

■ **ARC（Audio Return Channel）について**

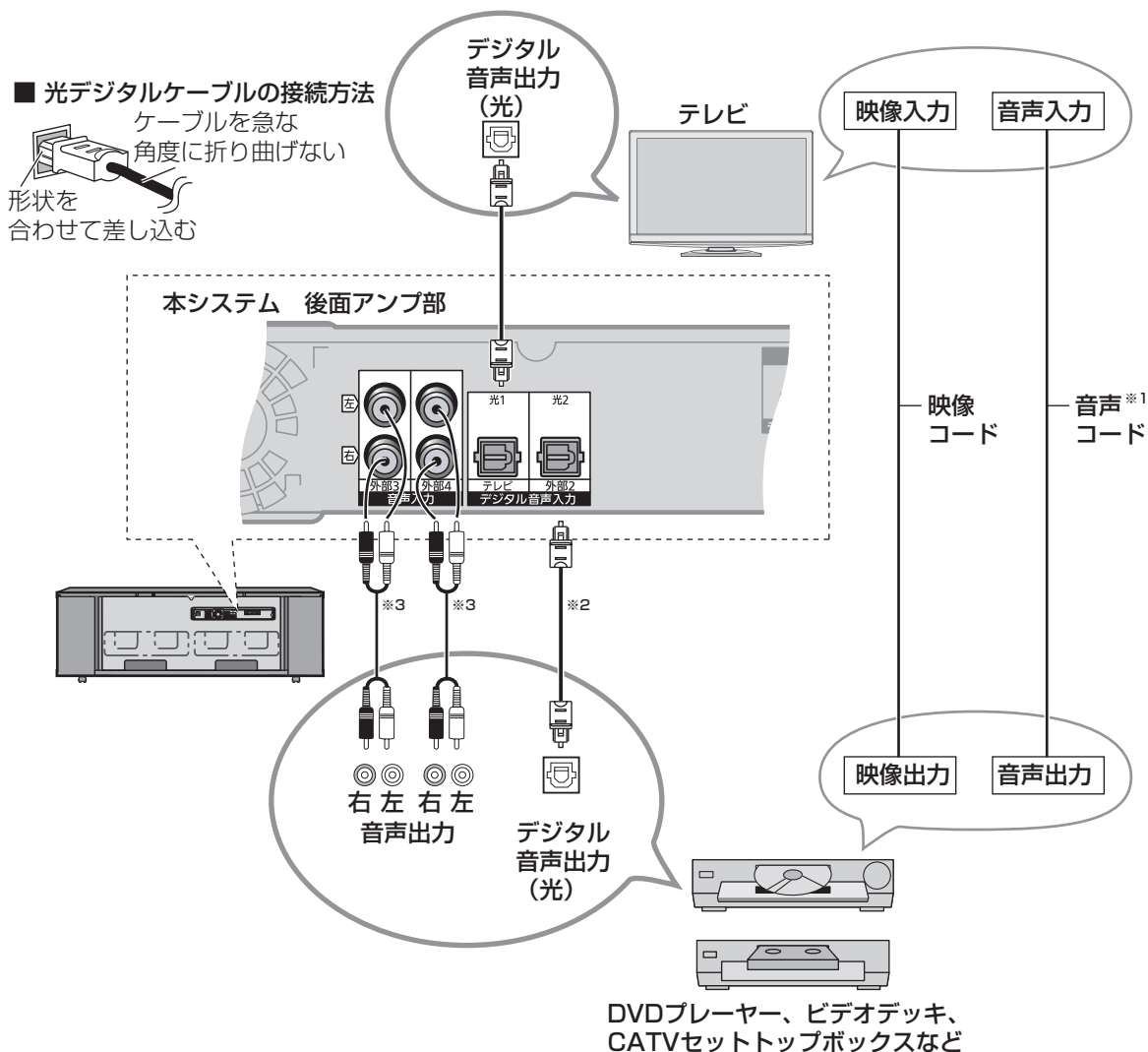
HDMI Ver.1.4 で新たに追加された機能です。
テレビなどの HDMI 入力端子から本システムの HDMI 出力端子にデジタル音声信号を送ります。

- 接続するテレビの ARC 対応 / 非対応についてはテレビの取扱説明書をご覧ください。

接続する（つづき）

● 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
● 接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。

HDMI 端子がない機器を接続する

映像コードは、テレビと各映像機器を直接接続してください。詳しくは接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

※1：接続する機器に音声出力が 2 系統ある場合、この接続をすると、本システムの電源を切っても接続した各機器の音声信号をテレビから出力できます。

※2、※3：**お持ちの機器に合わせて接続してください。（すべての端子に接続する必要はありません。）デジタル音声出力（光）端子がある場合は※2 の接続をしてください。**

本システムの HDMI 入力端子がすべて使用されている場合について

HDMI 端子のある CATV セットトップボックスなどを接続する場合で、本システムの HDMI 入力端子がすべて使用されているときは、下記の接続をしてください。

ARC 非対応テレビの場合

デジタル
音声出力
（光）

HDMI
入力

ARC 対応テレビの場合

HDMI入力
（ARC 対応）

HDMI入力

テレビの音声を楽しむときに
必要です。

■ 光デジタルケーブルの接続方法

ケーブルを急
な角度に折り
曲げない

形状を
合わせて差し込む

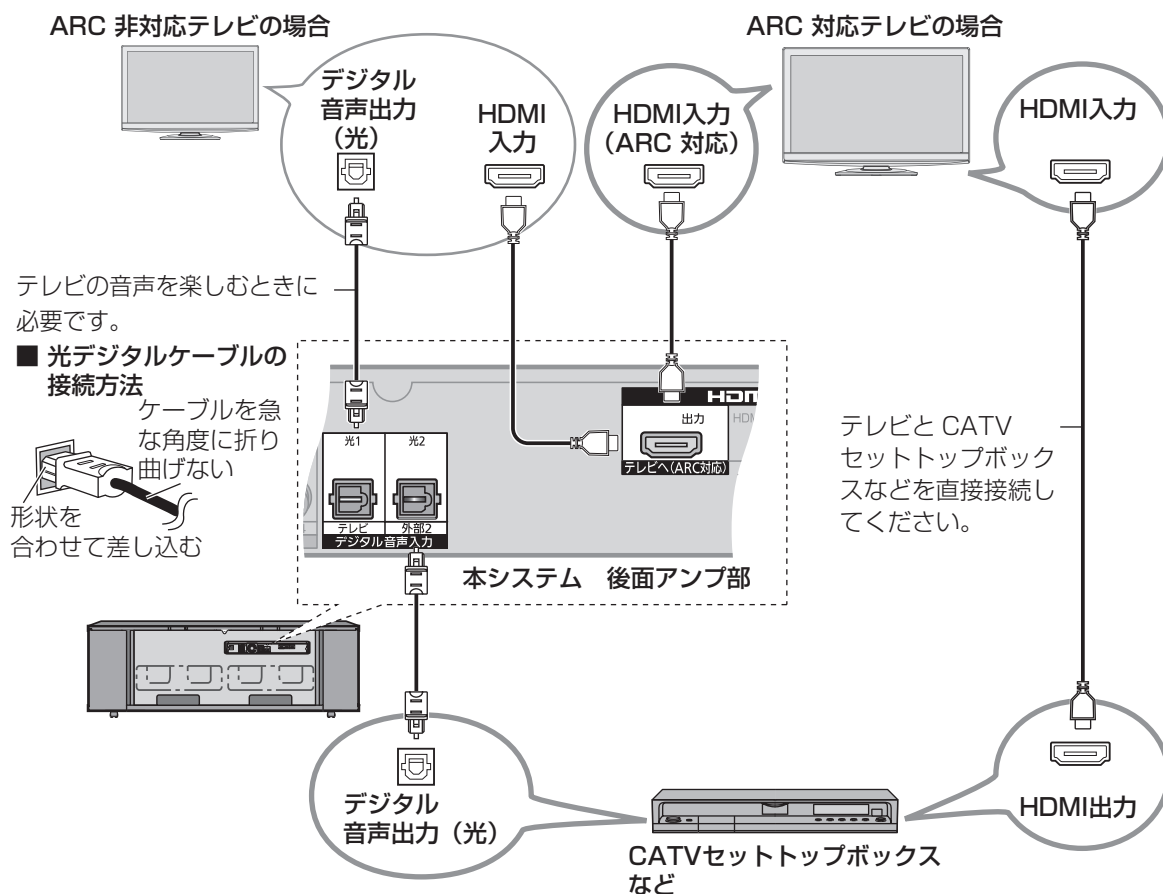
光1
光2
テレビ
外部2
デジタル音声入力

出力
テレビへ(ARC対応)

本システム　後面アンプ部

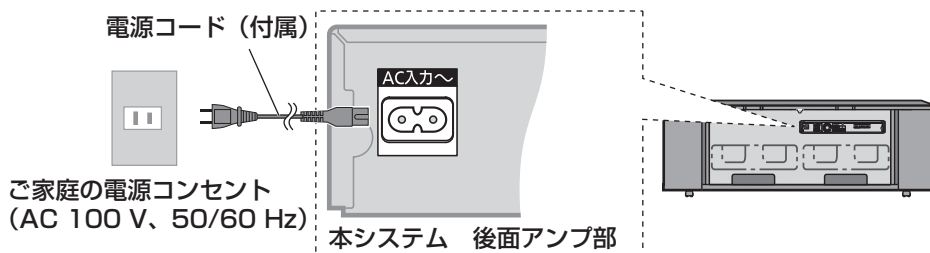
テレビと CATV
セットトップボック
スなどを直接接続し
てください。

デジタル
音声出力（光）

HDMI出力

CATVセットトップボックス
など

（お知らせ）

ビエラリンク（HDMI）対応のテレビと接続している場合、テレビ（ビエラ）に合わせて、本システムの入力も CATV セットトップボックスなどに自動で切り換わる設定にできます。（➔ 24 ページ）

電源コードの接続

<u>電源コードは必ず最後に接続してください。</u>

電源プラグをコンセントに接続した状態で、本システムとすべての接続機器の電源が切れているときは、約0.05 W の電力を消費しています。長期間使用しないときは節電のため抜いておくことをおすすめします。

電源プラグを抜くときは、必ず本システムの電源を切ってから抜いてください。

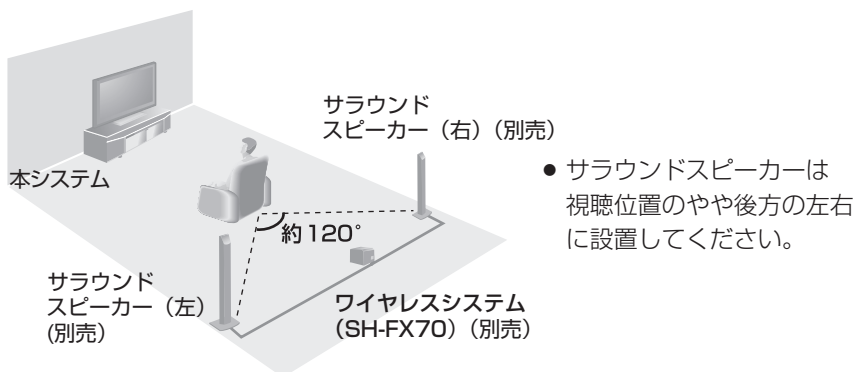
ワイヤレスシステムを使う

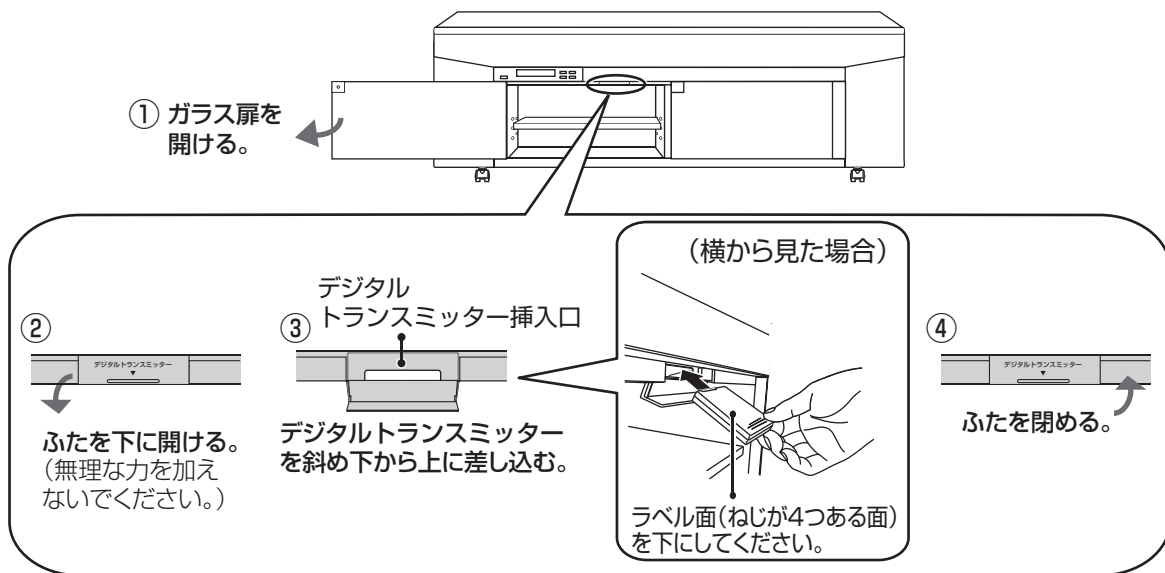
当社製 SH-FX70（別売）を使用して、左右サラウンドスピーカー（別売）をワイヤレスで接続することができます。
SH-FX70 は、デジタルトランスミッターとワイヤレスシステム本体のセットです。

1. ワイヤレスシステムにサラウンドスピーカーを接続する。

- 詳しくは、SH-FX70 の取扱説明書をご覧ください。

設置例 : スピーカーシステム SB-HS500A（別売）を接続した場合

- サラウンドスピーカーは視聴位置のやや後方の左右に設置してください。

2. 本システムにデジタルトランスミッターを挿入する。

- 挿入するときや取り外すときは、本システムの電源を切ってください。

■ デジタルトランスミッター表示について

デジタルトランスミッターの挿入後、電源を入れると（➜ 17 ページ）、デジタルトランスミッターが検出され、表示部に“W”が点灯します。
（検出動作中は点滅し、検出されると点灯になります。）

表示部

W

デジタルトランスミッターを挿入していても、下記のような場合は、ワイヤレスサラウンドスピーカーは動作しません。

- 表示部に“**SRD**”が点灯していない条件（ステレオ再生時）のとき（“W”は消灯）
- 電波が途切れているとき（SH-FX70 の電源が切れているとき）（“W”は点滅）

(お知らせ)

各スピーカーから視聴位置までの距離を設定すると、視聴位置に届く音の遅延時間を補正することができます。（➜ 23 ページ）

スピーカーの音を確認・調整する

テスト信号で音声の出力を確認する

本リモコンを本システム操作部の受信部（➜ 6 ページ）に向けてください。

1 電源

本システムの電源を入れる

押す

2 テスト

テスト信号を出力する

押す

約2秒間隔で下記のようにテスト信号が出力されます。

TEST L → ***TEST R*** → ***TEST RS***※ → ***TEST LS***※ → ***TEST SW*** →（TEST L へ戻る）

※ワイヤレスサラウンドスピーカーを使用時（➜ 16 ページ）に表示

スピーカー表示
L：フロント左、***R***：フロント右、
SW：サブウーハー、
RS：ワイヤレスサラウンド右、
LS：ワイヤレスサラウンド左

3 音量 －／＋

通常聞く音量にする

押す

テスト信号が聞こえることを確認してください。

調整範囲：***0***（最小）～ ***100***（最大）

4 テスト

テスト信号を止める

押す

（お知らせ）
スピーカーからテスト信号が出力されない場合は、コネクターの接続を確認してください。（➜ 5 ページ）

テスト信号でサブウーハーやワイヤレスサラウンドスピーカーの音量を調整する

テスト信号を出力します。（➜ 上記手順 1 ～ 3）

1.［スピーカーレベル］を押して、スピーカーを選ぶ

SW → ***RS***※ → ***LS***※ →（SW へ戻る）　※ワイヤレスサラウンドスピーカー使用時（➜ 16 ページ）に表示

- ［スピーカーレベル +、−］を押すと、［スピーカーレベル］でサブウーハーを選ばなくても、サブウーハーの調整ができます。

2.［スピーカーレベル +、−］を押して、音量を調整する

- フロントスピーカーは、この操作では調整できません。
- 調整中は調整しているスピーカーからテスト信号が出力され、操作後、約 2 秒経つと、再び順に出力されます。

調整範囲：
SW: OFF、MIN、1 ～ 15、MAX
RS、LS: － 10 ～＋ 10

手順 1. と 2. を繰り返し、各スピーカーを調整する

調整後、テスト信号を止めてください。（➜ 上記手順 4）

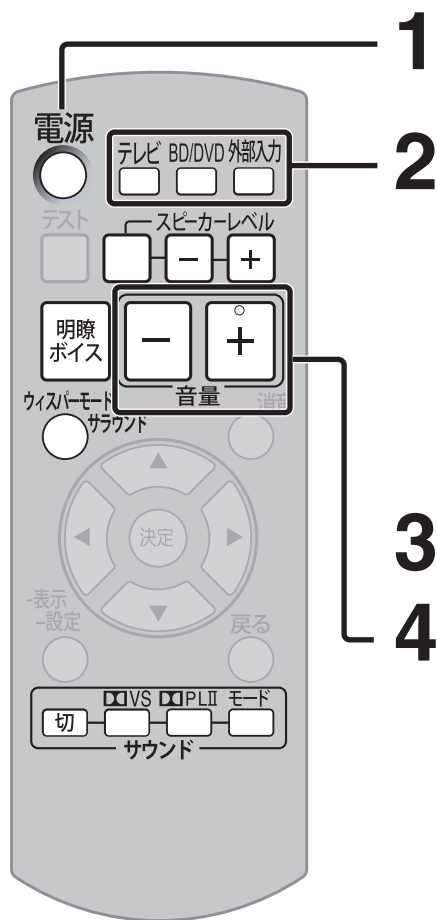
（お知らせ）
上記の調整をすると、サウンドモードの各スピーカーの音量も同時に調整されます。

テレビや映画、音楽を楽しむ

準備 テレビの電源を入れ、テレビのリモコンで本システムを接続した入力（[HDMI] など）に切り換える。

1 電源

本システムの電源を入れる

押す

2 テレビ または BD/DVD または 外部入力

接続している機器の入力を選ぶ

押す

TV	：テレビ（HDMI 出力、光 1）
BD/DVD	：ブルーレイディスクレコーダー、DVD レコーダー（HDMI1）
AUX 1	：外部 1 端子に接続した機器（HDMI2）
AUX 2	：外部 2 端子に接続した機器（光 2）
AUX 3	：外部 3 端子に接続した機器（音声入力）
AUX 4	：外部 4 端子に接続した機器（音声入力）

■ ***"AUX 1"*** 〜 ***"AUX 4"*** は [外部入力] を押すごとに切り換わります。

3 接続している機器を再生する

4 音量

音量を調整する

押す

調整範囲：***0***（最小）〜 ***100***（最大）

■ 再生を楽しんだ後は、音量を下げてから [電源] を押して、電源を切ってください。

- 本体でも操作できます。(➜ 5 ページ)
  その場合は、上記手順 2 で [入力切換] を押してください。
  （押すごとに入力が切り換わります。）

お知らせ

- HDMI 入力端子に接続した機器を再生中に、入力を"***TV***"に切り換えても、HDMI 入力端子に接続した機器の映像または音声は［HDMI 出力 テレビへ（ARC 対応）］端子から出力されます。
  両方の HDMI 端子に機器を接続している場合は、最後に入力を選択した方の機器の信号が出力されます。
- 本システムの電源が切れていても、HDMI 入力端子に接続されたレコーダーなどの映像 / 音声信号が本システムを通過して、［HDMI 出力 テレビへ（ARC 対応）］端子に接続されたテレビへ伝送されます。**（スタンバイスルー機能）**

■本システムは 3D に対応しています。
3D 対応テレビ、3D 対応のブルーレイディスクレコーダー / プレーヤーを本機に接続して、市販のブルーレイ 3D ディスクなどを迫力ある 3D 映像でお楽しみいただけます。

再生中にサブウーハーやワイヤレスサラウンドスピーカーの音量を調整する

1. [スピーカーレベル］を押して、スピーカーを選ぶ

SW → ***RS***※ → ***LS***※ （→ ***SW*** に戻る）

※ワイヤレスサラウンドスピーカー使用時（ ➜ 16 ページ) に表示

・［スピーカーレベル ＋、－］を押すと、［スピーカーレベル］でサブウーハーを選ばなくても、サブウーハーの調整ができます。

2. [スピーカーレベル ＋、－］を押して、音量を調整する

調整範囲：***SW: OFF***、***MIN***、***1*** 〜 ***15***、***MAX***
RS、***LS:*** － ***10*** 〜＋ ***10***

お知らせ

- 音がひずむ場合は、スピーカーレベルを下げてください。
- ワイヤレスサラウンドスピーカーを使用していても、表示部に"**SRD**"が点灯していない条件（ステレオ再生時）ではスピーカーレベルの調整はできません。
- サウンドモード（➜ 19 ページ）は、各モードごとにスピーカーの音量調整ができます。

いろいろな音場効果を楽しむ

サウンド効果

■ サウンドモード

音声に広がり感や臨場感を与えるサラウンド効果や声を聞きとりやすくする効果、迫力のある音にする効果などを楽しむことができます。

- 5.1 チャンネルで聞いているようなサラウンド再生ができます。
- ドルビーバーチャルスピーカー（➜ 下記）が働きます。
- サラウンドスピーカー（➜ 16 ページ）を使用すると、サウンドモードがより効果的に楽しめます。

モード 押す
- 押すと現在のサウンドモードが表示され、再度押すとモードが切り換わります。

STANDARD **（スタンダード）**	標準の再生モードです。立体的な広がりのあるサウンドを楽しめます。２チャンネルステレオ信号の場合は、同時にドルビープロロジックⅡ（➜ 下記）が働きます。
STADIUM **（スタジアム）**	解説の声はそのままに、その場でスポーツ観戦しているような臨場感を味わえます。野球やサッカーなどのスポーツ中継に適しています。
MUSIC **（ミュージック）**	自然な広がり感とダイナミックなサウンドで、音楽が楽しめます。
CINEMA **（シネマ）**	映画館のような迫力ある低音と広がりのある臨場感が楽しめます。映画鑑賞などに適しています。
NEWS **（ニュース）**	ニュース解説などの声が聞きとりやすくなります。ニュース番組など声を中心にした番組に適しています。

■ ドルビーバーチャルスピーカー

サラウンドスピーカーを接続しなくても、５．１チャンネルシステムで聞いているような立体的な仮想サラウンドを楽しめます。

[◘◘ VS] を押す

- 同時にサウンドモードが“***STANDARD***”になります。

■ ドルビープロロジックⅡ

テレビの音声や CD などの２チャンネルステレオ信号を５．１チャンネル化し、サラウンドで楽しむことができます。

[◘◘ PLⅡ] を押す

- 同時にサウンドモードが“***STANDARD***”になります。

サウンド効果を切る

切 **押す**

- サウンド効果がない状態になります。
- 入力信号がドルビーデジタルや LPCM（マルチチャンネル）などのサラウンドデジタル信号のときは、信号を２．１チャンネルに集約して再生します。
- サラウンドスピーカーを接続しているときは、信号を集約せず、そのまま各スピーカーから再生します。

音声を明瞭にする（明瞭ボイス）

テレビドラマや野球解説などの音声を聞き取りやすくし、またテレビ画面の方向から音が聞こえてくるような効果が楽しめます。
効果が不要な場合は“***OFF***”を選んでください。

[明瞭ボイス] を押して“*ON*”を選ぶ

“***OFF***”（切）↔“***ON***”（入：初期設定）
（押すたびに切り換わります。）

- この機能が「入」のときは、操作部の明瞭ボイスランプ（➜ ５ ページ）が点灯します。
- 本体でも設定できます。（➜ ５ ページ）

小音量時でも臨場感のある効果を楽しむ（ウィスパーモードサラウンド）

サラウンド再生時（表示部に“**SRD**”が点灯）のみ効果がある機能です。
小音量にしても臨場感のある効果が楽しめます。

[ウィスパーモードサラウンド] を押して“*W.S. ON*”を選ぶ

- 初めに現在の設定が表示されます。

“***W.S. OFF***”（切：初期設定）↔“***W.S. ON***”（入）
（押すたびに切り換わります。）

お知らせ

- 下記のような場合には、各サウンド効果は使用できません。
  - **すべてのサウンド効果が使用できない場合**
    光デジタル接続をしている場合で、LPCM のサンプリング周波数が 48 kHz を超える信号再生時。（入力されると自動的に解除されます。）その後、他の信号を再生して効果を使用するには、再び [モード] を押して選んでください。
  - **ドルビープロロジックⅡが使用できない場合**
    ドルビーデジタルや DTS、LPCM（マルチチャンネル）などのサラウンドデジタル信号再生時。（2 チャンネル音声の場合を除く。）
  - **ドルビーバーチャルスピーカーが使用できない場合**
    ワイヤレスサラウンドスピーカーを使用している場合で、サラウンド再生時。
- サウンド効果が切れているときに [モード] を押すと、“***STANDARD***”に設定されます。
- 2チャンネル入力時にサウンド効果を切っていても、その後マルチチャンネルが入力されるとサウンドモードが“***STANDARD***”に設定されます。（ワイヤレスサラウンドスピーカーを接続している場合を除く。）

ビエラリンク（HDMI）を使う

ビエラリンク（HDMI）（HDAVI Control™）とは

- 本システムと HDMI ケーブル（付属または別売）を使って接続したビエラリンク対応機器を自動的に連動させて、リモコン 1 つで簡単に操作できる機能です。各機器の詳しい操作については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
  ※すべての操作ができるものではありません。
- ビエラリンク（HDMI）は、HDMI CEC（Consumer Electronics Control）と呼ばれる業界標準の HDMI によるコントロール機能をベースに、当社独自機能を追加したものです。他社製 HDMI CEC 対応機器との動作保証はしておりません。
- ビエラリンク（HDMI）に対応した他社製品については、その製品の取扱説明書をご確認ください。
- 本システムはビエラリンク（HDMI）Ver.5 に対応しています。
  ビエラリンク（HDMI）Ver.5 とは、従来の当社製ビエラリンク機器にも対応した当社基準です。
  （2010 年 3 月現在）

接続

本システムとビエラリンク（HDMI）に対応した当社製テレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）を HDMI ケーブルで接続します。

- HDMI 規格に準拠していないケーブルでは動作しません。
- 詳しい接続については 13 ページをご覧ください。

ビエラリンク（HDMI）を正常に動作させるために

設定

- **テレビ（ビエラ）の「電源オン時の音声出力」を「シアター（AV アンプ）」にする。**
- **テレビ（ビエラ）で「音声をシアター（AV アンプ）から出す」を選ぶ。**
- **テレビ（ビエラ）のサウンドモードを“オート”にする。**

操作

1. テレビ（ビエラ）以外のすべての機器の電源を入れる。
2. テレビ（ビエラ）の電源を入れる。
3. テレビ（ビエラ）の入力を本システムを接続した HDMI 端子に切り換える。
4. 本システムの入力を HDMI 入力に切り換えて、レコーダー (ディーガ) などの画像が正しく映るか確認する。

お知らせ

- 各機器がビエラリンク（HDMI）を働かせる設定になっているか確認してください。
- 機器を追加したときや接続し直したとき、「HDMI によるコントロール機能の設定を変更する」（➔ 23 ページ）を変更したときにもこの設定を行ってください。

ビエラリンク（HDMI）を使わないときは

「HDMI によるコントロール機能の設定を変更する」（➔ 23 ページ）で“***CTRL OFF***”を選んでください。

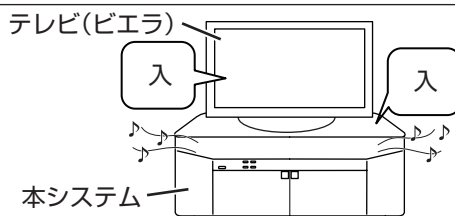
ビエラリンク（HDMI）でできること テレビ（ビエラ）のリモコンで行う操作です

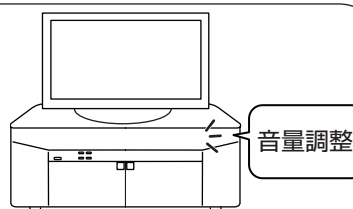
必ず 20 ページの「ビエラリンク（HDMI）を正常に動作させるために」を先に行ってください。

本リモコンの電源ボタンで電源を入れずに、テレビ(ビエラ)のリモコンで「音声をシアター(AVアンプ)から出す」を選択してください。(本システムの電源が自動的に入ります。)

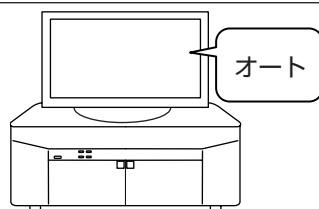
• テレビによって、操作は異なります。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書をご覧ください。

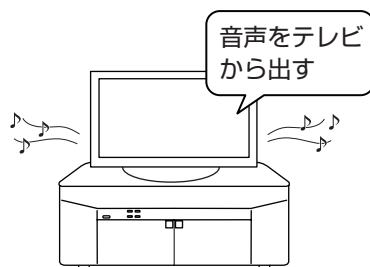
本システムの電源が自動で「入 / 切」できる。

テレビ（ビエラ）の電源を入れると、本システムの電源も入ります。
テレビ（ビエラ）の電源を切ると、本システムの電源も切れます。

本システムの音量調整ができる。

テレビ（ビエラ）で音量を調整すると、本システムの音量も調整できます。

サウンドモードを自動で設定できる。

「番組ぴったりサウンド（オートサウンド連携)」

• ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）との組み合わせのみになります。
• 手動での設定もできます。

テレビ（ビエラ）から音声を出すように切り換えられる。

• テレビ（ビエラ）のビエラリンクメニューから「音声をテレビから出す」を選択します。
• ビエラリンク（HDMI）Ver.4 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）との組み合わせの場合は、自動的に本システムの電源を切る設定ができます。（こまめにオフ機能）

イラストは、イメージであり、実際とは異なる場合があります。

お知らせ

● テレビ（ビエラ）のリモコンの操作で本システムの電源を切ると、ビエラリンク（HDMI）に対応したレコーダー（ディーガ）と HDMI ケーブルで接続している場合は、レコーダー（ディーガ）の電源も切れます。
● ビエラリンク（HDMI）Ver.4 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）との組み合わせの場合は、本システムの電源を入れると、テレビ（ビエラ）が「音声をシアター (AV アンプ) から出す」設定になります。
● 番組ぴったりサウンドは、以下の場合に働きます。
  • ビエラリンク（HDMI）対応の接続機器でデジタル放送の番組を視聴中または再生中、DVD、CD、SD などを再生中。
    • 自動的にサウンドを切り換えるかどうかの設定ができます。
    • 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
● テレビ（ビエラ）のリモコンで、チャンネル選択などの操作を行うと、本システムの入力が“***TV***”に切り換わります。
● HDMI 入力端子に接続したレコーダー（ディーガ）などを再生すると、本システムの入力が自動で HDMI 入力に切り換わります。
● テレビ（ビエラ）と本システムの音量調整の最大値が異なる場合があります。

本システムの設定を変更する

基本の操作

-表示
-設定

設定モードに入る

約 2 秒間押したままにする

設定項目が表示されます。

決定

設定を変更する

変更する項目を [◀] [▶] で選び、[決定] を押す

設定項目	設定内容	ページ
ECO MODE	消費電力を抑える（エコモード）	23
BASS	低音の音質を調整する	
TREB	高音の音質を調整する	
BALANCE	フロントスピーカーの音量バランスを調整する	
※***DISTANCE***	各スピーカーの距離の差を補正する	
HDMI	HDMI によるコントロール機能の設定を変更する	
TV AUDIO	テレビ音声を光デジタル入力に固定する	
※***STB AUTO***	自動で入力が CATV セットトップボックスに切り換わるように設定する	24
S. DELAY	音声を遅らせて映像に近づける	
DUAL PRG	二重音声を切り換える	
DRCOMP	小音量時に聞きとりやすくする	
REMOTE	リモコンコードを変更する	25
PCM FIX	入力を PCM に固定する	24
RESET	購入時の設定に戻す（リセット）	25
EXIT	設定モードを終了する	–

※は調整が有効な場合のみ表示されます。

[◀] [▶] [▲] [▼] で設定内容を変更し、[決定] を押す

- 詳しくは 23 ～ 25 ページをご覧ください。

戻る

決定

設定を終える

[戻る] を数回押して "*EXIT*" を選び、[決定] を押す

設定操作中に一つ前の画面に戻る／キャンセルする：［戻る］を押す

☞ 設定を変更するには、先に設定モードに入ってください。(➜ 22 ページ)

消費電力を抑える（エコモード）

この設定をすると、サウンドモードが「切」のときや“***STANDARD***”、“***NEWS***”のときに消費電力を抑えることができます。

1. [◀][▶] で“***ECO MODE***”を選び、[決定] を押す
2. [▲][▼] で“***ON***”または“***OFF***”を選び、[決定] を押す

ON : エコモードを使用する（初期設定）
OFF : エコモードを使用しない

お知らせ

ビエラリンク（HDMI）の「番組ぴったりサウンド（オートサウンド連携）」(➜ 21 ページ）を使用すると、効率良く消費電力を抑えることができます。

低音や高音の音質を調整する

1. [◀][▶] で“***BASS***”または“***TREB***”を選び、[決定] を押す

BASS : 低音
TREB : 高音

2. [▲][▼] で調整し、[決定] を押す

調整範囲 : ***–6*** ～ ***+6***
初期設定 : ***0***

お知らせ

低音の調整は、サブウーハー（***SW***）の調整でもできます。(➜ 17 ページ)

フロントスピーカーの音量バランスを調整する

1. [◀][▶] で“***BALANCE***”を選び、[決定] を押す
2. [◀][▶] で調整し、[決定] を押す

L : フロントスピーカー（左）
R : フロントスピーカー（右）
表示部のバーを左右に動かすことで調整します。

- “***L***”に近づくにつれて、左に音が寄ります。
- “***R***”に近づくにつれて、右に音が寄ります。

お知らせ

バーの表示は目安です。

各スピーカーの距離の差を補正する

ワイヤレスサラウンドスピーカー接続時（➜ 16 ページ）のみ、表示されます。各スピーカー（フロント、サラウンド）から視聴位置までの距離を設定することで、自動的に遅延時間を算出し、補正します。

1. [◀][▶] で“***DISTANCE***”を選び、[決定] を押す
2. [◀][▶] で設定するスピーカーを選び、[決定] を押す

FRT : フロントスピーカー
SUR : サラウンドスピーカー

3. [▲][▼] で各スピーカーから視聴位置までの距離を選び、[決定] を押す

設定値 : ***1.0*** ～ ***10.0*** m
初期設定 : **フロント** ***3.0*** m
サラウンド ***1.5*** m

HDMI によるコントロール機能の設定を変更する

ビエラリンク（HDMI）(➜ 20、21 ページ）を使用しない場合は、“***CTRL OFF***”に設定してください。

1. [◀][▶] で“***HDMI***”を選び、[決定] を押す
2. [▲][▼] で“***CTRL ON***”または“***CTRL OFF***”を選び、[決定] を押す

CTRL ON : 使うとき（初期設定）
CTRL OFF : 使わないとき

お知らせ

- この設定を有効にするには、設定変更後に、接続しているすべての機器の電源を一度切ってください。
- “***CTRL OFF***”に設定すると ARC の機能が働かなくなります。必ず光デジタルケーブルを接続してください。(➜ 13 ページ)

テレビ音声を光デジタル入力に固定する

当社製以外の ARC 対応テレビを接続している場合で、正しくテレビの音声が出力されないときは、光デジタルケーブルを接続し（➜ 13 ページ）、“***OPT FIX***”に設定してください。

1. [◀][▶] で“***TV AUDIO***”を選び、[決定] を押す
2. [▲][▼] で“***OPT FIX***”を選び、[決定] を押す

AUTO : HDMI ケーブルを通したデジタル音声入力 (ARC) を使用する（初期設定）
OPT FIX : 光デジタル入力端子を使用する

お知らせ

ARC 非対応のテレビと接続している場合、“***AUTO***”に設定していても光デジタル入力が選択されます。

本システムの設定を変更する（つづき）

☞ 設定を変更するには、先に設定モードに入ってください。（➜ 22 ページ）

自動で入力が CATV セットトップボックスに切り換わるように設定する

「本システムの HDMI 入力端子がすべて使用されている場合について」（➜ 15 ページ）の接続をした場合、この設定をすることで、テレビ（ビエラ）に合わせて本システムの入力も CATV セットボックスなどに切り換えることができます。

準備：15 ページの接続をした後、テレビ（ビエラ）の入力を切り換え、CATV セットトップボックスなどの画像を映す

1. [◀][▶] で“***STB AUTO***”を選び、[決定] を押す
2. [▲][▼] で“***SET***”を選び、[決定] を押す

SET：自動的に入力が“***AUX2 - STB***”に切り換わるように設定する
OFF：自動的に入力が“***AUX2 - STB***”に切り換わるように設定しない（初期設定）

お知らせ

- 当社製テレビ（ビエラ）と接続している場合で、上記準備をしているときのみ“***STB AUTO***”が表示されます。
- “***SET***”に設定した場合、“***AUX 2***”（➜ 18 ページ）は、“***AUX 2 - STB***”と表示されます。
- 設定後に接続を変更した場合は、一度“***OFF***”に設定してから再度“***SET***”に設定してください。

音声を遅らせて映像に近づける

映像が音声よりも遅れている場合に、音声を遅らせて、映像に近づけます。

1. [◀][▶] で“***S. DELAY***”を選び、[決定] を押す
2. [▲][▼] で設定を選び、[決定] を押す

AUTO（初期設定）、***OFF***、***10***、***20***、***30***、***40***、***60***、***80***、***100***、***120***、***140***、***160***、***180***、***200***

お知らせ

- ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）を接続している場合に“***AUTO***”を選ぶと、自動的に最適な値に設定されます。（オートリップシンク）
- ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応していない当社製テレビ（ビエラ）、もしくは当社製以外のテレビを接続している場合に“***AUTO***”を選ぶと、“***40***”（msec）に設定されます。

二重音声を切り換える

AAC、ドルビーデジタル信号の二重音声を切り換えることができます。

1. [◀][▶] で“***DUAL PRG***”を選び、[決定] を押す
2. [▲][▼] で音声を選び、[決定] を押す

MAIN：主音声（初期設定）　***SUB***：副音声
M+S：主＋副音声

小音量時に聞きとりやすくする

音声信号の最大音と最小音の差を圧縮し、音場に影響することなく小音量でもセリフを聞きやすくします。この機能に対応したドルビーデジタル信号にのみ有効です。

1. [◀][▶] で“***DRCOMP***”を選び、[決定] を押す
2. [▲][▼] で設定を選び、[決定] を押す

OFF：通常の再生（初期設定）
STANDARD：音源に合わせた最適な再生
MAX：常に最大圧縮

入力を PCM に固定する

CD の曲の始めが途切れるときなどに設定してください。

1. [◀][▶] で“***PCM FIX***”を選び、[決定] を押す
2. [◀][▶] で PCM に固定したい入力を選び、[決定] を押す

入力：***TV***、***DVD***、***AUX1***、***AUX2***

3. [▲][▼] で“***ON***”を選び、[決定] を押す

ON：入　***OFF***：切（初期設定）

お知らせ

- “***ON***”に設定すると PCM 信号のみ再生されます。
- ノイズが発生する場合は、“***OFF***”に戻してください。

便利な機能

購入時の設定に戻す（リセット）

本システムの設定を購入時の状態に戻します。

1. [◀][▶] で“*RESET*”を選び、
   [決定] を押す
2. [▲][▼] で“*YES*”を選び、[決定]
   を押す

   YES：リセットする　*NO*：リセットしない
   ● 中止するには“*NO*”を選びます。

お知らせ
● “*YES*”を選ぶと、すべての設定がリセットされ、自動的に入力が“*BD/DVD*”になります。
● “*NO*”を選ぶと、手順 1. に戻ります

リモコンコードを変更する

本システムのリモコンを使用すると他の当社製機器（ミニコンや AV アンプなど）が動作することがあります。その場合は、本体とリモコンのリモコンコードを“*REMOTE 2*”に切り換えてください。

本体側を設定する

1. [◀][▶] で“*REMOTE*”を選び、
   [決定] を押す
2. [▲][▼] で“*REMOTE 2*”を選び、
   [決定] を押す

   REMOTE 1：リモコンコードを 1 にする場合。（初期設定）
   REMOTE 2：リモコンコードを 2 にする場合。
   ● リモコン側を設定するまでは、操作を終了できません。先に下記操作「リモコン側を設定する」を行ってください。

リモコン側を設定する

[決定] を押したまま [BD/DVD] を押す（4 秒以上）

[テレビ]：リモコンコードを 1 にする場合（初期設定）
[BD/DVD]：リモコンコードを 2 にする場合
● 手順 2. で選んだコード番号と同じ番号を選んでください。

一時的に音を消す

機能が働いている間、表示部に“*MUTE*”が点滅します。

[消音] を押す

もう一度押すと解除されます。

お知らせ
● 電源を切ると解除されます。
● 音量を調整すると解除されます。

現在の状態を表示する

現在の状態（音量、サウンドモード、入力信号）が順に表示されます。

[– 表示、一設定] を押す

それぞれの項目を表示中に [– 表示、一設定] を押すと表示中の項目の次の項目が表示されます。

（表示例）
音量
● ***“VOLUME - 32”***

サウンドモード（➜ 19 ページ）
● ***“STANDARD”***
● ***“DOLBY PL Ⅱ ”***（ドルビープロロジックⅡ）
● ***“DOLBY VS”***（ドルビーバーチャルスピーカー）

など

入力信号
● ***“DOLBY DIGITAL 3 / 2.1”***（ドルビーデジタル）
  - 1：サブウーハー信号の数
  - 2：サラウンドのチャンネル数
  - 3：フロントとセンターのチャンネル数
● ***“DUAL PROGRAM / MAIN”***（二重音声の受信状態）
● ***“LPCM 2CH”***、***“LPCM 5.1CH”***（LPCMのチャンネル数）

など

お知らせ
● 入力信号ではサンプリング周波数も表示されます。（88.2 kHz、96 kHz 時のみ）
● 不明な信号が入力された場合は ***“NONE”*** と表示されます。

仕様

■ アンプ部

実用最大出力合計値　285 W（非同期駆動、JEITA）

実用最大出力

フロント（L/R）

62 W ＋ 62 W（1 kHz、4 Ω、非同期駆動、JEITA）

サブウーハー

161 W（100 Hz、6 Ω、非同期駆動、JEITA）

負荷インピーダンス

フロント（L/R）	4 Ω
サブウーハー	6 Ω

入力感度 / 入力インピーダンス

外部 3、外部 4	700 mVrms /33 kΩ

信号対雑音比（SN 比）

BD/DVD、テレビ、外部 1、外部 2	96 dB

トーンコントロール特性

低音	± 6 dB（50 Hz）（JEITA）
高音	± 6 dB（20 kHz）（JEITA）

入出力端子

音声	
アナログ音声入力（外部 3、外部 4）	2
光デジタル音声入力（テレビ、外部 2）	2
映像・音声	
HDMI 入力（BD/DVD、外部 1）	2
HDMI 出力 ARC 対応（テレビへ）	1

本システムは、ビエラリンク Ver.5 に対応しています。

■ ラックシステム部

SC-HTX900

寸法（幅×高さ×奥行）

1620 mm × 434 mm × 458 mm

質量	約 66.0 kg
耐荷重量	
天板	120 kg
棚板、底板	12 kg

SC-HTX800

寸法（幅×高さ×奥行）

1300 mm × 448 mm × 420 mm

質量	約 45.0 kg
耐荷重量	
天板	80 kg
棚板、底板	12 kg

■ スピーカーシステム部

SC-HTX900

フロントスピーカー部（L/R）

2 ウェイ 2 スピーカーシステム（バスレフ型）

8 cm コーン型ウーハー× 2

6 cm コーン型ツィーター× 2

サブウーハー部

1 ウェイ 2 スピーカーシステム（バスレフ型）

13 cm コーン型ウーハー× 2

SC-HTX800

フロントスピーカー部（L/R）

1 ウェイ 1 スピーカーシステム（バスレフ型）

6.5 cm コーン型フルレンジ× 2

サブウーハー部

1 ウェイ 2 スピーカーシステム（バスレフ型）

13 cm コーン型ウーハー× 2

■ 総合

電源	AC 100 V、50/60 Hz
消費電力（本体）	90 W
電源スタンバイ時の消費電力	約 0.05 W

■ 動作使用条件

周囲温度	0 ℃～ 40 ℃
相対湿度	20 %～ 80 %（結露なきこと）

注）

この仕様は、性能向上のため変更することがあります。

「JIS C 61000-3-2 適合品」

：JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20 A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

本システムで再生できるデジタル信号

■ AAC
地上デジタル放送や BS 放送など
■ ドルビーデジタル
ブルーレイディスクや DVD など
■ DTS
ブルーレイディスクや DVD など
■ LPCM（2チャンネル）
CD や DVD オーディオなど
■ LPCM（マルチチャンネル）
ブルーレイディスクや DVD オーディオなど

お知らせ

- 光デジタル接続している場合、サンプリング周波数が 48 kHz までの LPCM（マルチチャンネル）信号と 96 kHz までの LPCM（2チャンネル）信号を再生することができます。
- 入力信号が 48 kHz を越えるサンプリング周波数の場合に使用できるサウンド効果。
  HDMI 接続： 再生機器側で 48 kHz に変換されるため、すべての機能が使用できます。
  光デジタル接続： サウンドモード、ドルビーバーチャルスピーカー、ドルビープロロジックⅡの機能は使用できません。（自動的に解除されます。）
  2 チャンネルのステレオ再生でお楽しみください。
  アナログ接続：すべての機能が使用できます。

■ 本システムは 3D や x.v.Color（カラー）、Deep Color（ディープ カラー） に対応しています

x.v.Color（カラー）
広色域色空間の国際標準規格「xvYCC」に準拠した製品の名称です。

Deep Color（ディープ カラー）
対応するテレビやレコーダーなどに接続することで、より幅の広いカラーグラデーション（4096 段階）を再生することができます。滑らかで複雑なグラデーションを表現し、縞模様状に見える色の変化を最小限に抑えた、抜群に深みのある、自然に近い色をお楽しみいただけます。

Q&A（よくあるご質問）

Q（質問）	A（回答）
マイクを接続したい。	本システムには接続できません。
長時間使用すると、本システムが熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。ただし、後面の排気孔を物でふさぐなど、放熱を妨げることはしないでください。
デジタル接続で、DVD オーディオを再生しても音が出ない。	本システムは CPPM（著作権保護技術）に対応していますので、HDMI ケーブルで接続すると、DVD オーディオの音声を楽しむことができます。（➜ 13 ページ）
サラウンドスピーカーを追加して接続できるか。	別売の SH-FX70 を使用して、ワイヤレス接続ができます。（➜ 16 ページ）
他のアンプやスピーカーを接続できるか。	本システムではできません。

お手入れ

電源プラグをコンセントから抜き、乾いた柔らかい布でふいてください。

- 汚れがひどいときは、水にひたした布をよく絞ってから汚れをふき取り、そのあと、乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナー、アルコール、台所洗剤などの溶剤は、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがありますので使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

故障かな！？

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。
なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

	こんなときは	ここを処置・確認してください	ページ
共通	電源が入らない。	● 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、確認してください。	15
共通	機器の再生を始めても音や映像が出ない。	● 入力信号を正しく選択してください。 ● 消音を解除してください。 ● 本システムで再生できるデジタル信号か確認してください。 ● 機器やスピーカー端子にコードやコネクターが正しく接続されているか確認してください。 ● （テレビ音声が聞こえない場合）ARC 非対応のテレビとの接続には光デジタルケーブルが必要です。詳しくは接続するテレビの取扱説明書をご覧ください。 ● 「入力を PCM に固定する」で“***OFF***”に設定してください。 ● 本システムの電源を「切 / 入」してください。 ● スピーカーのテスト信号、スピーカーの調整を行ってください。 ● 接続経路に問題がない場合、ケーブルの異常かもしれません。お手持ちの他のケーブルで、再度接続を試みてください。	18 25 27 5、13～15 13 24 － 17 －
共通	リモコンが働かない。	● 電池が消耗している場合は電池を交換してください。	6
共通	DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しもうとしたが、マイクの音が出ない。	● DVD プレーヤーと本システムをデジタル接続している場合は、マイクの音は出力されません。アナログ接続してください。	14
共通	DTS の音声が出ない。	● 接続している映像機器のデジタル音声出力の設定が、ビットストリームであることを確認してください。	－
共通	DVD オーディオを再生しても音が出ない。	● 光デジタルケーブルで接続した場合、著作権保護の理由などで音声が出ないディスクがあります。また、48 kHz を超えるサンプリング周波数の音声も再生されないことがあります。	－
共通	音が出なくなった。 （***“F61”***が約 1 秒間表示される。） 本システムは異常を検出すると、保護回路が働いて、電源を自動的に切ります。	● アンプの出力異常です。 ● 著しい大音量で聞いていませんか。 ● 異常に暑い場所で使用していませんか。 ● カーテンや異物により、排気孔をふさいでいませんか。 ⇒ 原因を解消して、しばらく待ってから再び電源を入れてください。（保護回路の動作が解除されます。） （それでも同じ現象が起こる場合は販売店にご相談ください。）	－ － － －
共通	***“F70***□□□□ ”が表示される。 （□には“***DSP***”“***DAP***”または“***HDMI***”が表示されます。）	● 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	－
共通	***“F76”***が表示される。 （表示したあと、電源が切れます。）	● 電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	－
音場効果	サラウンドで音が聞こえない。	● サウンドモード、ドルビーバーチャルスピーカー、ドルビープロロジックⅡ を選択してください。	19

	こんなときは	ここを処置・確認してください	ページ
音場効果	サウンドモード、ドルビーバーチャルスピーカー、ドルビープロロジックⅡ が使えない。	● 光デジタル接続をしている場合、サンプリング周波数が 48 kHz を超える LPCM 信号のときは使用できません。使用する場合は、再生機器側の「PCM ダウンサンプリング変換」などの設定で出力信号のサンプリング周波数を 48 kHz に変換する設定にしてください。詳しくは再生機器側の取扱説明書をご覧ください。	14
	デジタル放送で二重音声放送の切り換えができない。	● テレビ / レコーダーの音声出力からビットストリーム / Bitstream（AAC）が出力される設定にしてください。	−
	テレビの音声が音切れする。	● 音切れする場合、テレビ側の音声出力の設定を AAC にしてください。	−
HDMI	HDMI 接続で、始めの数秒間の音声が再生されない。	DVD をチャプターから再生した場合に起こることがあります。以下の処置をしてください。 ① 接続した映像機器のデジタル音声出力の設定をビットストリーム設定から PCM 設定にしてください。 ②「入力を PCM に固定する」で“***ON***”に設定してください。	− 24
	正常に動作しない。	● HDMI の入力端子と出力端子を間違えて接続すると、正常に動作しません。一度電源を切り、電源プラグを抜いてから接続し直してください。	13
	ビエラリンク（HDMI）が働かなくなった。	●「HDMI によるコントロール機能の設定を変更する」で“***CTRL ON***”（使うとき）に設定しているか確認してください。“***CTRL OFF***”になっている場合は、“***CTRL ON***”に変更してください。 ● 接続した機器側のビエラリンク（HDMI）の設定を確認してください。 ● HDMI 機器の接続を変更したときや停電やコンセントの抜き差しをしたときなどにビエラリンク（HDMI）が動作しなくなる場合があります。このときは、以下の操作をしてください。 ・HDMI ケーブルで接続したすべての機器の電源を入れた状態で、テレビ（ビエラ）の電源を入れ直す。 ・テレビ（ビエラ）のビエラリンク（HDMI）を働かせる設定を一度「切」にした後、再度入れ直す。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書をご覧ください。 ・テレビ（ビエラ）と本システムを HDMI ケーブルで接続して、テレビ（ビエラ）の電源を入れ、そのまま本システムの電源プラグを一度抜いてから接続し直す。	23 − −
	設置時はテレビ（ビエラ）が映っていたのに、映らなくなった。	● 本システムとテレビ（ビエラ）のみの組み合わせでご使用の場合､本システムとテレビ(ビエラ)を接続する HDMI ケーブルは、[HDMI 出力 テレビへ（ARC 対応)］端子に接続してください。	−
	地上デジタル /BS 放送の番組で初めの数秒間の音声が再生されない。	● テレビ（ビエラ）のサウンドを“オート”から“スタンダード”に変更してみてください。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書をご覧ください。	−
	DVD やブルーレイディスクなどマルチチャンネルの音声が入ったソースを再生しても“SRD”の表示が出ない。	● ビエラリンク (HDMI) を使用している場合でテレビ（ビエラ）が「音声をテレビから出す」に設定されているときは、「音声をシアター（AV アンプ）から出す」に設定してください。	20、21

こんな表示が出たら

表示	調べるところ・原因・対策	ページ
CANCEL MUTE FUNCTION （スクロール表示）	● 消音中にテスト信号は出力されません。 消音を解除してから操作してください。	25
MUTE（点滅表示）	● 消音中、常に表示されます。	25
NOT CONDITIONAL （スクロール表示）	● 操作された機能は現在使用できません。 ・ワイヤレスサラウンドスピーカーを使用している場合はドルビーバーチャルスピーカーは無効です。 ・マルチチャンネル信号には、ドルビープロロジックⅡは使用できません。 ・地上デジタル放送など AAC 信号のモノラル放送や音声多重放送にはドルビープロロジックⅡは使用できません。 ・光デジタル入力から 48 kHz を越えるサンプリング周波数の信号が入力されている場合は、サウンドモード、ドルビーバーチャルスピーカー、ドルビープロロジックⅡは使用できません。	19、27
PCM FIX（点滅表示）	● PCM 固定を解除してください。	24
SWITCH OFF POWER （スクロール表示）	● F70 □□□□が表示されているときは、電源以外の操作はできません。電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	−
U30 REM2 ***U30 REM1***	● リモコンコードを設定し、本体とリモコンのコードを合わせてください。“***U30 REM2*** ”が表示された場合、「リモコンコードを変更する」の「リモコン側を設定する」の操作でリモコンコードを 2 に設定してください。“***U30 REM1***”が表示された場合も、同じように「リモコン側を設定する」の操作でリモコンコードを 1 に設定してください。	25
U701	● HDMI 接続した機器が、本システムの著作権保護に対応していません。	−
U704	● HDMI 接続で、本システムが対応していない映像フォーマットを受信しました。接続した機器の設定を確認してください。	−
U703	● HDMI 接続で異常があります。以下の処置をしてください。 それでも直らないときは、販売店にご相談ください。 −接続した機器の電源を「切 / 入」してください。 − HDMI ケーブルを抜き差ししてください。 −本システム出力側の接続台数が 2 台を超えないようにしてください。	−

安全上のご注意（必ずお守りください）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。
	気をつけていただく内容です。

⚠ 警告

異常・故障時には直ちに使用を中止する

電源プラグを抜く

異常があったときには、電源プラグを抜く

- **煙が出たり、異常なにおいや音がする**
- **音声が出ないことがある**
- **内部に水や異物が入った**
- **電源プラグが異常に熱い**
- **本体に変形や破損した部分がある**

そのまま使うと火災・感電の原因になります。

- 電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。

電源コード・プラグを破損するようなことはしない（傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、束ねるなど）

傷んだまま使用すると、火災·感電·ショートの原因になります。

- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

分解、改造をしない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない

ショートや発熱により、火災・感電の原因になります。

- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

使い切った電池は、すぐにリモコンから取り出す

そのまま機器の中に放置すると、電池の液もれや、発熱・破裂の原因になります。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

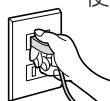
ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

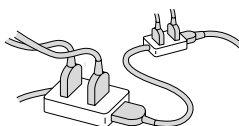
ぬれ手禁止

感電の原因になります。

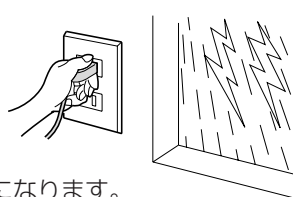
電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ·ゆるんだコンセントは、使わないでください。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流 100 V 以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

雷が鳴ったら、本機や電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因になります。

安全上のご注意（つづき）

⚠ 警告

電池は誤った使いかたをしない

- 指定以外の電池を使わない
- 乾電池は充電しない
- 加熱・分解したり、水などの液体や火の中へ入れたりしない
- ⊕ と ⊖ を針金などで接続しない
- 金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに保管しない
- ⊕ と ⊖ を逆に入れない
- 新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使わない
- 被覆のはがれた電池は使わない

取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になります。
- 電池には安全のため被覆をかぶせています。これをはがすとショートの原因になりますので、絶対にはがさないでください。

電池の液がもれたときは、素手でさわらない

- 液が目に入ったときは、失明のおそれがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。
- 液が身体や衣服に付いたときは、皮膚の炎症やけがの原因になるので、きれいな水で十分に洗い流したあと、医師にご相談ください。

テレビは転倒防止の処置をする

地震やお子様がよじ登ったり、背面よりもたれたりすると、転倒しけがの原因になります。
- 安全のため、必ずキャスター座を取り付け、転倒防止ベルトでテレビとラックを固定してください。
- テレビは、壁にも固定してください。

テレビはラック天板の中央に設置する

ラック天板の前面、後面よりはみ出して設置すると、落ちたりしてけがの原因になります。

設置したテレビがはみ出した場合、当たらないようにする

倒れたり、破損してけがの原因になります。

回転機能付の据置スタンド搭載のテレビ使用時は、回転範囲内に手や物を置かない

指をはさんでけがの原因になります。
- 特にお子様にはご注意ください。

回転機能付の据置スタンド搭載のテレビ使用時は、テレビが壁に当たらないようにラックを壁から離して設置する

指をはさんでけがの原因になります。
- 特にお子様にはご注意ください。

⚠ 注意

放熱を妨げない

内部に熱がこもると、火災の原因になることがあります。
- 後面の排気孔をふさがないでください。
- また、外装ケースが変形する原因にもなりますのでご注意ください。

長期間使わないときや、お手入れのときは、電源プラグを抜く

通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、ろう電などにより、火災の原因になることがあります。

油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多いところに置かない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。

コードを接続した状態で移動しない

接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。また、引っかかって、けがの原因になることがあります。

異常に温度が高くなるところに置かない

温度が高くなりすぎると、火災の原因になることがあります。
- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。
- また、外装ケースや内部部品が劣化する原因にもなりますのでご注意ください。

ラックの上に乗ったり、座ったりしない

落ちたりして、けがの原因になることがあります。
- 特にお子様にはご注意ください。

本システムのイラスト（姿図）は、イメージイラストであり、ご購入のものとは形状が多少異なる場合がありますが、御了承ください。

⚠ 注意

長期間使わないときは、リモコンから電池を取り出す

液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

キャスター（車）には注油しない

キャスター（車）のひび割れ、破損の原因となり、倒れたり破損してけがの原因になることがあります。

万一、ラックやガラスに変形・ひび割れ・割れが起こった場合は、使用しない

そのまま使用すると倒れたり、破損してけがの原因になることがあります。

- すぐに販売店へご連絡ください。

テレビは片寄った載せかたをしない

倒れたり、破損してけがの原因になることがあります。

ラックの設置時や扉の開閉時には、指をはさまれないように注意する

指はさみ注意

けがの原因になることがあります。

- 扉の開閉はゆっくりとしてください。

キャスター付きラックを移動するときは、キャスター座を取り外す

キャスター座を取り付けたまま移動すると、倒れたり、破損してけがの原因になることがあります。

- 段差のあるところやじゅうたんなどの柔らかいところでは、特にご注意ください。
- キャスター座の取り外しは、必ず本文の説明に従って行ってください。

ラックの移動や設置時に、ラック下部の透き間内に足先を入れない

けがの原因になることがあります。

棚板保持部品、転倒防止ねじは、乳幼児の手の届くところに置かない

誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼす場合があります。

- 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

スピーカーは内蔵のものを使用する

内蔵以外のスピーカーを接続すると、スピーカーが発熱し、火災の原因になることがあります。

ガラス扉を傷つけたり、衝撃を与えない

ガラスは強化ガラスです。使いかたを誤ると割れるおそれがあり、けがの原因になることがあります。

- 鋭利なものや、とがったものなどで傷をつけないでください。
- 強化処理をしたガラスは、傷が入った状態で長期間ご使用になりますと、傷が進行し自然に破損することがあります。
- 傷が入った場合は、販売店に相談して、新しいガラスと取り替えてください。

天板・棚板・底板には指定した質量以上の機器を載せない

ラックに載せられる質量を超えて長期間使用されますと、破損してけがの原因となることがあります。

- 天板には次の数値を超える機器を載せないでください。
  SC-HTX900：120 kg
  SC-HTX800：80 kg
- 棚板・底板には 12kg を超える機器を載せないでください。
- 天板には、テレビ以外の物を置かないでください。

不安定な場所に置かない

高い場所、水平以外の場所、振動や衝撃の起こる場所に置かない

倒れたり落下すると、けがの原因になることがあります。

設置や移動、キャスター座の取り付けは２人以上で行う

１人で無理に行うと、腰を痛めたり、けがの原因になることがあります。

- キャスター座の取り付けは、必ず本文の説明に従って行ってください。

ラックを搬送したり、キャスターを取り外してラックを移動するときは、必ず指定された部分を持って行う

指定された部分以外を持って移動すると、けがの原因になることがあります。

- 持ちかたについては、必ず本文の説明に従って行ってください。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・使いかた・お手入れ　などは

■ まず、お買い求め先へ ご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名			
電　話	（　　）	−	
お買い上げ日	年	月	日

修理を依頼されるときは

「故障かな !?」「こんな表示が出たら」（➜ 28 ～ 30 ページ）でご確認のあと、直らないときは、まず電源コードを抜いて、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

- ● **製品名**　ホームシアターオーディオシステム
- ● **品　番**
- ● **故障の状況**　できるだけ具体的に

● **保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。**

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

● **保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。**

※ 修理料金は次の内容で構成されています。

- **技術料** 診断・修理・調整・点検などの費用
- **部品代** 部品および補助材料代
- **出張料** 技術者を派遣する費用

※ **補修用性能部品の保有期間** 8 年

当社は、このホームシアターオーディオシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後 8 年保有しています。

■ **転居や贈答品などでお困りの場合は、次の窓口にご相談ください**

※「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。
http://panasonic.jp/support/

● **修理に関するご相談は**………………

パナソニック 修理ご相談窓口

電話 フリーダイヤル 携帯・PHS OK **0120-878-554**
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

• 上記電話番号がご利用いただけない場合は、各地の「修理ご相談窓口」におかけください。

● **使いかた・お手入れなどのご相談は**…………………………

パナソニック お客様ご相談センター 365日 受付9時～20時

電話 フリーダイヤル 携帯・PHS OK **0120-878-365**
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

■上記番号がご利用いただけない場合 **06-6907-1187**
■FAX フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan
Tokyo (03) 3256-5444 **Osaka** (06) 6645-8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

※上記の内容は、予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

※ ご使用の回線（IP 電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

【ご相談窓口における個人情報のお取り扱い】

パナソニック株式会社およびパナソニックグループ関係会社（以下「当社」）は、お客様の個人情報をパナソニック製品に関するご相談対応や修理サービスなどに利用させていただきます。併せて、お問い合わせ内容を正確に把握するため、ご相談内容を録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいておりますので、ご了承願います。当社は、お客様の個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に個人情報を開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

■各地域の修理ご相談窓口　※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

• 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

地区	窓口	電話番号	所在地
北海道地区	札　幌	☎ (011)894-1251	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7
	旭　川	☎ (0166)22-3011	旭川市2条通16丁目1166
	帯　広	☎ (0155)33-8477	帯広市西20条北2丁目23-3
	函　館	☎ (0138)48-6631	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）
東北地区	青　森	☎ (017)775-0326	青森市大字浜田字豊田364
	秋　田	☎ (018)868-7008	秋田市外旭川字小谷地3-1
	岩　手	☎ (019)645-6130	盛岡市厨川5丁目1-43
	宮　城	☎ (022)387-1117	仙台市宮城野区扇町7-4-18
	山　形	☎ (023)641-8100	山形市平清水1丁目1-75
	福　島	☎ (024)991-9308	郡山市亀田1丁目51-15
首都圏地区	栃　木	☎ (028)689-2555	宇都宮市上戸祭3丁目3-19
	群　馬	☎ (027)254-2075	前橋市箱田町325-1
	茨　城	☎ (029)864-8756	つくば市筑穂3丁目15-3
	埼　玉	☎ (048)728-8960	桶川市赤堀2丁目4-2
	千　葉	☎ (043)208-6034	千葉市中央区末広5丁目9-5
	東　京	☎ (03)5477-9700	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17
	山　梨	☎ (055)222-5822	甲府市宝1丁目4-13
	神奈川	☎ (045)847-9720	横浜市港南区日野5丁目3-16
	新　潟	☎ (025)286-0180	新潟市東区東明1丁目8-14
中部地区	石　川	☎ (076)280-6608	金沢市玉鉾2丁目266番地
	富　山	☎ (076)424-2549	富山市根塚町1丁目1-4
	福　井	☎ (0776)21-0622	福井市問屋町2丁目14
	長　野	☎ (0263)86-9209	松本市寿北7丁目3-11
	静　岡	☎ (054)287-9000	静岡市葵区千代田7丁目7-5
	愛　知	☎ (052)819-0225	名古屋市瑞穂区塩入町8-10
	岐　阜	☎ (058)278-6720	岐阜市中鶉4丁目42
	高　山	☎ (0577)33-0613	高山市花岡町3丁目82
	三　重	☎ (059)254-5520	津市久居野村町字山神421
近畿地区	滋　賀	☎ (077)582-5021	守山市水保町1166番地の1
	京　都	☎ (075)646-2123	京都市南区上鳥羽中河原3番地
	大　阪	☎ (06)6359-6225	大阪市城東区関目2丁目15-5
	奈　良	☎ (0743)59-2770	大和郡山市筒井町800番地
	和歌山	☎ (073)475-2984	和歌山市中島499-1
	兵　庫	☎ (078)796-3140	神戸市須磨区弥栄台3丁目13-4
中国地区	鳥　取	☎ (0857)26-9695	鳥取市安長295-1
	米　子	☎ (0859)34-2129	米子市米原4丁目2-33
	松　江	☎ (0852)23-1128	松江市平成町182番地14
	出　雲	☎ (0853)21-3133	出雲市渡橋町416
	浜　田	☎ (0855)22-6629	浜田市下府町327-93
	岡　山	☎ (086)242-6236	岡山市北区田中138-110
	広　島	☎ (082)295-5011	広島市西区南観音1丁目13-5
	山　口	☎ (083)973-2720	山口市小郡下郷220-1
四国地区	香　川	☎ (087)868-6388	高松市勅使町152-2
	徳　島	☎ (088)624-0253	徳島市沖浜2丁目36
	高　知	☎ (088)834-3142	高知市仲田町2-16
	愛　媛	☎ (089)905-7544	愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1
九州地区	福　岡	☎ (092)593-8002	春日市春日公園3丁目48
	佐　賀	☎ (0952)26-9151	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044
	長　崎	☎ (095)830-1658	長崎市東町1919-1
	大　分	☎ (097)556-3815	大分市萩原4丁目8-35
	宮　崎	☎ (0985)63-1213	宮崎市本郷北方字草葉2099-2
	熊　本	☎ (096)367-6067	熊本市健軍本町12-3
	天　草	☎ (0969)22-3125	天草市港町18-11
	鹿児島	☎ (099)250-5657	鹿児島市与次郎1丁目5-33
	大　島	☎ (0997)53-5101	奄美市名瀬朝仁町11-2
沖縄地区	沖　縄	☎ (098)877-1207	浦添市城間4丁目23-11

所在地、電話番号は変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。
最新の「各地域の修理ご相談窓口」はホームページをご活用ください。http://panasonic.co.jp/cs/service/area.html　1109

パナソニックの会員サイト「CLUB Panasonic」で「ご愛用者登録」をしてください

お宅の家電情報をまとめて登録管理! エンジョイポイントをためてプレゼントに応募!
アンケートにもご協力をお願い申し上げます。

※このサービスはWEB限定のサービスです。

—このマークがある場合は—

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報

このシンボルマークは EU 域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

愛情点検

長年ご使用のホームシアターオーディオシステムの点検を！

こんな症状はありませんか

- 煙が出たり、異常なにおいや音がする
- 音声が出ないことがある
- 内部に水や異物が入った
- 本体に変形や破損した部分がある
- その他の異常や故障がある

ご使用中止

故障や事故防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

販売店名	☎（　　）　－	品番	
お客様ご相談窓口	☎（　　）　－	お買い上げ日	年　月　日

パナソニック株式会社
AVCネットワークス社　ネットワーク事業グループ
〒571－8504　大阪府門真市松生町 1 番 15 号

VQT2U07-2
H0310RT2060